

公益社団法人日本看護科学学会 2024年12月社員総会 議案書

日 時 2024年12月6日(金) 17:00~19:00

場 所 市民会館シアーズホーム夢ホール内2階大会議室
〒860-0805 熊本県熊本市中央区桜町1-3

I. 開 会

II. 理事長挨拶

III. 第44回日本看護科学学会学術集会会長の挨拶

IV. 議長指名および議事録署名人の承認

V. 総務報告・理事会報告・委員会活動報告

VI. 審議事項

第1号議案 2025年度事業計画(案)の承認

第2号議案 2025年度予算(案)の承認

第3号議案 定款の変更(学会総会について)

第4号議案 第47回学術集会会長の承認

VII. 閉 会

公益社団法人日本看護科学学会 役員

理事長 吉沢 豊予子

副理事長 西村 ユミ

理事：有森 直子、池田 真理、井上 智子、大久保 暢子、萱間 真美、
鎌倉 やよい、グレッグ 美鈴、佐藤 和佳子、田口 敦子、仲上 豪二郎、
山川 みやえ、山本 則子、吉永 尚紀

監事：井部 俊子、数間 恵子

名誉会員

阿曾 洋子、稲岡 文昭、今村 節子、氏家 幸子、金川 克子、川嶋 みどり、
川村 佐和子、小島 操子、小玉 香津子、小山 真理子、近藤 潤子、島内 節、
新道 幸恵、中島 紀恵子、中村 恵子、林 滋子、林 優子、菱沼 典子、
松野 かほる、南 裕子、矢野 正子、山崎 智子

賛助会員

(株)医学書院、(株)南江堂、(株)日本看護協会出版会、(株)へるす出版

(以上、五十音順・2024年10月31日現在)

日本看護科学学会学術集会会長

第44回学術集会会長 第45回学術集会会長 第46回学術集会会長

前田 ひとみ

有森 直子

西村 ユミ

社員

【北海道】

青柳 道子
上田 泉
河口 てる子
川村 三希子
今野 美紀
定廣 和香子
澤田 いずみ
城丸 瑞恵
鷺見 尚己
照井 レナ
長谷川 真澄
樋之津 淳子
三国 久美
山田 律子

【東北】

アングアホッフ
ア 司寿子
安齋 由貴子
安保 寛明
大森 純子
角濱 春美
金子 さゆり
菅野 恵美
小林 淳子
坂本 祐子
佐藤 富美子
佐藤 和佳子
塩飽 仁
高橋 和子
高橋 有里
鄭 佳紅
中村 康香
福島 裕子
藤田 あけみ
布施 淳子
吉沢 豊予子

【関東A】

栗生田 友子
安梅 勅江
飯岡 由紀子
池内 彰子
牛久保 美津子
大澤 真奈美
岡 美智代
恩幣 宏美
角田 直枝

金泉 志保美
上山 真美
國清 恭子
近藤 由香
齋藤 基
清水 裕子
鈴木 幸子
高井 ゆかり
成田 伸
野崎 真奈美
橋本 晴美
東 めぐみ
堀越 政孝
松田 安弘
水野 道代
村井 文江
山下 暢子
吉田 久美子
涌水 理恵

【関東B】

有本 梓
飯田 貴映子
池崎 澄江
石井 邦子
石丸 美奈
岡田 忍
小黒 道子
落合 亮太
数間 恵子
勝山 貴美子
叶谷 由佳
川名 るり
黒田 久美子
斉藤 しのぶ
酒井 郁子
櫻井 しのぶ
佐藤 紀子
佐藤 まゆみ
茂野 香おる
島袋 香子
清水 準一
諏訪 さゆり
高橋 良幸
谷口 千絵
谷本 真理子
田母神 裕美
中山 登志子

別府 千恵
水戸 優子
宮芝 智子
宮本 千津子
宮脇 美保子
村上 明美
村中 陽子
森 明子
湯浅 美千代
吉田 澄恵
和住 淑子
渡邊 千登世

【東京A】

麻原 きよみ
五十嵐 歩
池田 真理
井部 俊子
大久保 暢子
大田 えりか
奥 裕美

小山田 恭子
片岡 弥恵子
北村 言
坂本 すが
佐々木 美奈子
習田 明裕
鶴若 麻理
仲上 豪二朗
中山 和弘
西村 ユミ
林 直子
春名 めぐみ
宮本 有紀
麦田 裕子
山本 則子
吉岡 京子
米澤 かおり

【東京B】

秋山 正子
池亀 俊美
井村 真澄
井本 寛子
江本 リナ
岡谷 恵子
小川 久貴子
小澤 三枝子
萱間 真美

川原 由佳里
来生 奈巳子
草間 朋子
小林 信
坂井 志麻
佐藤 正美
田中 孝美
筒井 真優美
寺岡 征太郎
野末 聖香
濱田 由紀
福井 トシ子
藤田 淳子
本田 彰子
三浦 英恵
森 千鶴

森 真喜子
矢ヶ崎 香
矢富 有見子

【甲信越】

浅野 美礼
有森 直子
内山 美枝子
小林 康江
坂井 さゆり
下里 誠二
竹内 幸江
谷口 珠実
中込 さと子
八尋 道子
山崎 章恵
渡辺 みどり

【北陸】

稲垣 美智子
大江 真琴
大乗 麻由美
表 志津子
加藤 真由美
川島 和代
紺家 千津子
多崎 恵子
田中 浩二
牧野 智恵
四谷 淳子

【東海】

秋山 智弥
浅野 みどり

安藤 詳子
市江 和子
宇城 令
大石 ふみ子
大島 千佳
大島 弓子
大津 廣子
岡田 摩理
片岡 純
片岡 三佳
片山 はるみ
鎌倉 やよい
木戸 芳史
小松 万喜子
坂本 真理子
佐藤 一樹
佐藤 直美
篠崎 恵美子
白尾 久美子
白鳥 さつき
高植 幸子
玉田 章
辻川 真弓
新家 一輝
野口 眞弓
服部 淳子
原沢 優子
藤井 徹也
藤野 あゆみ
操 華子
箕浦 哲嗣
百瀬 由美子
山田 聡子
脇坂 浩
渡井 いずみ
渡邊 順子

【近畿A】

青山 ヒフミ
赤澤 千春
東 ますみ
荒尾 晴恵
池田 清子
池西 悦子
井上 智子
ウィリアムソン 彰子
上野 昌江

【近畿B】

吾妻 知美
荒川 千登世
糸島 陽子
伊波 早苗
上野 栄一
荻田 美穂子
片山 由加里
黒江 ゆり子
竹之内 沙弥香
田村 恵子
當日 雅代
奈良間 美保
任 和子

内 正子
宇都宮 明美
大野 かおり
大野 ゆう子
勝原 裕美子
加藤 令子
神崎 初美
北村 愛子
久米 弥寿子
グライナー 智恵子
河野 あゆみ
小西 美和子
近藤 麻理
坂下 玲子
鈴木 志津枝
瀬戸 奈津子
高橋 弘枝
高見沢 恵美子
田中 京子
玉木 敦子
都筑 千景
二宮 啓子
林 千冬
武用 百子
細田 泰子
前川 幸子
宮脇 郁子
森 菊子
安酸 史子
山川 みやえ
山崎 あけみ
山本 あい子

野島 敬祐	木下 由美子
本田 可奈子	倉岡 有美子
光木 幸子	グレッジ 美鈴
毛利 貴子	黒田 裕美
吉岡 さおり	末次 典恵
【中国・四国】	竹熊 千晶
吾郷 美奈恵	田中 美智子
畦地 博子	谷口 初美
井伊 久美子	藤内 美保
池添 志乃	中尾 久子
石橋 照子	野間口 千香穂
市原 多香子	橋口 暢子
伊東 美佐江	鳩野 洋子
今井 多樹子	花田 妙子
岩佐 幸恵	濱田 裕子
大川 宣容	平野 かよ子
大平 光子	藤野 成美
岡田 淳子	藤野 ユリ子
折山 早苗	増満 誠
國方 弘子	益守 かづき
久保田 聡美	三重野 英子
黒田 寿美恵	三橋 睦子
佐伯 由香	宮園 真美
陶山 啓子	宮林 郁子
高瀬 美由紀	村田 節子
田中 愛子	分島 るり子
田中 マキ子	
谷垣 静子	
田村 由美	
永井 眞由美	
中野 綾美	
名越 恵美	
野嶋 佐由美	
原 祥子	
百田 武司	
深井 喜代子	
深田 美香	
松本 啓子	
森下 安子	
森本 美智子	
山田 覚	
【九州・沖縄】	
穴井 めぐみ	
飯野 英親	
江藤 宏美	
尾形 由起子	
金岡 麻希	
神里 みどり	

（以上、340名
地区別
五十音順）

(2024年10月31日現在)

総務報告

1. 会員推移 (2024年4月1日～2024年10月10日)

1) 正会員数増減

①2024年4月1日正会員数

9,694名 = 2024年3月31日正会員数10,369名 - 2024年度資格喪失者675名

(自主退会407名、会費未納268名)

②2024年度の入会者

794名 = 新規入会690名 + 再入会104名

③2024年度の死亡喪失者

正会員5名 名誉会員0名

④会員区分の変更

0名 正会員から名誉会員 (下記3) の承認数含)

2) 賛助会員増減

なし

3) 名誉会員

承認 1名 (区分変更なし、再入会による)

4) 2024年10月10日現在 会員数

正会員 10,483 ※4月1日正会員数+入・再入会数-会員区分変更数-正会員死亡喪失者数

名誉会員 22

賛助会員 4

会員総数 10,509

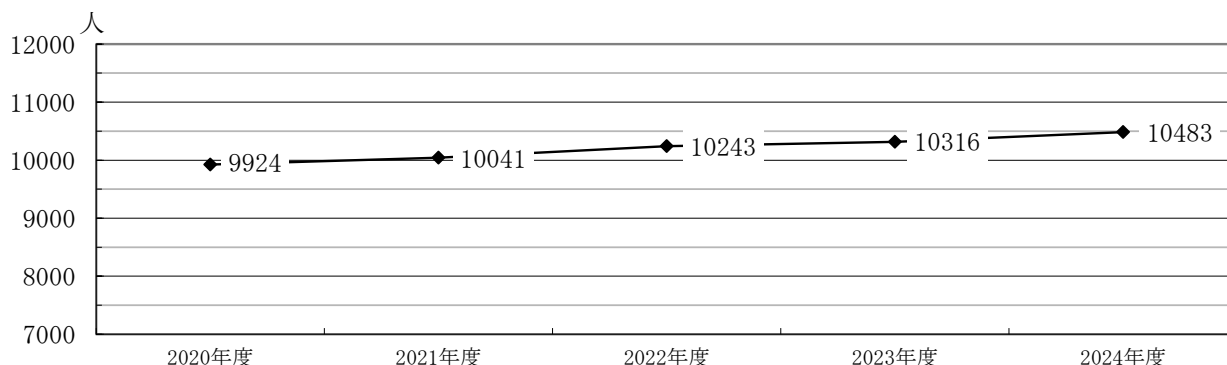
2. 地区別正会員数 (2024年10月10日 会員数10,483)

地区	都道府県	正会員数	地区	都道府県	正会員数	地区	都道府県	正会員数	
北海道 411	北海道	411	北陸	富山	91	九州・沖縄	福岡	509	
				石川	173		佐賀	66	
東北 582	青森	124	東海	福井	76		長崎	72	
	岩手	92		静岡	208		熊本	106	
	宮城	184		愛知	607		大分	58	
	秋田	66		岐阜	198		宮崎	83	
	山形	60		三重	163		鹿児島	69	
	福島	56		近畿 A	大阪		719	沖縄	90
関東 A 849	茨城	152	近畿 B	兵庫	572		宛先不明者		33
	栃木	132		滋賀	121		合計		10,483
	群馬	178		京都	288				
	埼玉	387		奈良	108				
関東 B 1230	千葉	605	中国・四国	和歌山	78				
	神奈川	625		鳥取	45				
東京 A 720	※1	720		島根	53				
	※2	825		岡山	185				
東京 B 825				広島	285				
				山口	91				
甲信越 354	新潟	126		徳島	62				
	長野	148		香川	71				
	山梨	80		愛媛	109				
				高知	123				

※1 千代田区、中央区、港区、台東区、文京区、北区、荒川区、足立区、葛飾区、墨田区、江戸川区、江東区、品川区、大田区、島しょ、海外

※2 渋谷区、目黒区、世田谷区、新宿区、中野区、杉並区、豊島区、板橋区、練馬区、多摩地域

3. 正会員数の推移 (年度別)



公益社団法人日本看護科学学会 理事会報告

(2024年4月1日～2024年12月6日)

2024年度第1回理事会

日時：2024年5月21日（火）13：00～15：00

場所：オンライン開催 日本看護科学学会事務所

(東京都千代田区神田須田町1-5-14 デイアモンドビル6階)

出席者：理事15名、監事2名、第44回学術集会会長、第45回学術集会会長 ※全出席者オンライン参加

〈審議事項〉

1. 第44回日本看護科学学会学術集会（JANS44）の準備状況
2. 第45回日本看護科学学会学術集会（JANS45）の準備状況
3. 総務会からの提案・報告
4. 入会希望者の承認
5. 会費減免の申請
6. 2024年6月定時社員総会の議案の承認と進行の確認
7. 会計報告（各委員会からの報告および審議事項と予算執行状況について）
8. 審議のある委員会
 - 1) 和文誌編集委員会
 - 2) 英文誌編集委員会
 - 3) 国際活動推進委員会
 - 4) 研究助成選考委員会
9. その他の委員会報告
 - 1) 和文誌編集委員会
 - 2) 英文誌編集委員会
 - 3) 表彰論文選考委員会
 - 4) 研究・学術推進委員会
 - 5) （看護ケア開発・標準化委員会）報告なし
 - 6) 若手研究者活動推進委員会
 - 7) 国際活動推進委員会
 - 8) 看護学学術用語検討委員会
 - 9) 社会貢献委員会
 - 10) 広報委員会
 - 11) 看護倫理検討委員会
 - 12) （利益相反委員会）報告なし

- 13) (研究倫理審査委員会) 報告なし
- 14) 災害看護支援委員会
- 15) 若手研究者助成選考委員会
- 16) 会則等委員会
- 17) COVID-19 看護研究等対策委員会
- 18) 研究助成選考委員会
- 19) 総務委員会
- 20) 研究助成選考委員会

10. その他 他団体との連携について

- ①日本看護系学会協議会
- ②看護系学会等社会保険連合 (看保連)
- ③日本学術会議
- ④その他の団体

11. 連絡事項

2024 年度第 2 回理事会

日 時：2024 年 6 月 15 日 (土) 10:00～12:00

場 所：AP 日本橋 6 階 Room D (〒103-0027 東京都中央区日本橋 3-6-2 日本橋フロント 6F)

出席者：理事 15 名、監事 2 名、第 44 回学術集会会長

〈審議事項〉

1. 第 44 回日本看護科学学会学術集会 (JANS44) の準備状況
2. 総務会からの提案・報告
3. 2024 年 6 月定時社員総会の議案と進行分担表の確認
4. 入会希望者の承認
5. 審議のある委員会
6. その他の委員会報告
7. その他
8. 連絡事項

2024 年度第 3 回理事会

日 時：2024 年 9 月 3 日 (火) 13:00～15:00

場 所：オンライン開催 日本看護科学学会事務所

(東京都千代田区神田須田町 1-5-14 ディアモンドビル 6 階)

出席者：理事 12 名、監事 2 名、第 44 回学術集会会長 ※全出席者オンライン参加

〈審議事項〉

1. 第44回日本看護科学学会学術集会（JANS44）の準備状況
2. 第45回日本看護科学学会学術集会（JANS45）の準備状況
3. 総務会からの提案・報告
4. 入会希望者の承認
5. 2024年12月社員総会と第44回学会総会について
6. 会計報告（各委員会からの報告および審議事項と予算執行状況について）
7. 審議のある委員会
8. 報告のある委員会
9. その他
10. 連絡事項

2024年度第4回理事会

日時：2024年10月23日（水）13：00～15：00

場所：オンライン開催 日本看護科学学会事務所

（東京都千代田区神田須田町1-5-14 デイアモンドビル6階）

出席者：理事13名、監事2名、第44回学術集会会長、第45回学術集会会長

※全出席者オンライン参加

〈審議事項〉

1. 第44回日本看護科学学会学術集会（JANS44）の準備状況
2. 第45回日本看護科学学会学術集会（JANS45）の準備状況
3. 2025年選出理事候補者選挙
4. 総務会からの提案・報告
5. 2024年12月社員総会の議案の承認、進行の確認
6. 入会希望者の承認
7. 会計報告（2024年度各委員会予算執行率・予算執行状況）
8. 審議のある委員会
9. 報告のある委員会
10. その他
11. 連絡事項

2024年度第5回理事会

日時：2024年12月6日（金）14：00～16：00（予定）

場所：市民会館シアーズホーム夢ホール（熊本市市民会館）（〒860-0805 熊本県熊本市中央区桜町1-3）

出席者：理事 15 名、監事 2 名（予定）

〈審議事項〉

1. 総務会からの提案・報告
2. 2024 年 12 月社員総会の資料と進行の確認
3. 第 44 回学会総会の資料と進行の確認
4. 入会希望者の承認
5. 審議のある委員会
6. 報告のある委員会
7. その他

公益社団法人日本看護科学学会 2024-2025年度委員会名簿

※所属機関名は2024年10月31日現在の会員登録データに基づいています

委員会	役職・担当	氏名	所属機関名
和文誌編集	委員長/編集長 編集長 編集長	井上智子	大阪大学大学院
		勝山貴美子	横浜市立大学大学院
		瀬戸奈津子	関西医科大学大学院
		青柳道子	札幌医科大学大学院
		安齋由貴子	清泉女子学院大学
		飯岡由紀子	埼玉県立大学
		市原多香子	香川県立大学
		大澤真奈美	群馬県立健康科学大学院
		大山裕美子	聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院
		荻田美穂子	滋賀医科大学
		冲中由美	岡山山手大学大学院
		小澤未緒	広島大学大学院
		倉岡有美子	令和健康科学大学院
		佐藤伊織	東京大学大学院
		佐藤真由美	弘前大学大学院
		島崎明子	名古屋女子大学
		清水佐知子	武庫川女子大学
		清鈴小百合	順天堂大学大学院
		園部真美	東京都立国際大学
		鶴若麻理	聖名古屋大学
		新家一輝	京都府立医科大学
		野島敬祐	京都府立医科大学
		樋上山容明	大阪医科大学
		檜山明子	札幌医科大学
		藤野成美	佐賀大学
		星野純子	名古屋大学
		松本啓子	香川県立大学
宮本悦子	京大女子大学		
森本悦子	甲斐女子大学		
八尋道子	佐久大学		
山崎あけみ	大阪大学		
吉田美香	大東大学		
植木慎悟	九州大学		
英文誌編集	委員長 編集長	グレッジ美鈴	名桜大学大学院
		William L. Holzemer	Rutgers, The State University of New Jersey, School of Nursing
		朝倉京子	東北大学大学院
		石原逸子	大阪歯科大学
		上田佳世	奈良県立医科大学
		江藤宏美	長崎大学
		加澤佳奈	岡山山手大学
		加藤憲司	神戸女子大学
		グライナー智恵子	神戸大学大学院
		コリー紀代	北海道大学大学院
		近藤暁子	京大
		齋藤あや	新潟大学
		佐藤堯史	神戸大学
		副島準一	長崎大学
		田中麻希	京大
		谷口理美	東横市立大学
		千葉由恵	京都大学
		月野ルミ	東京科学大学
		角田秋恵	東京有明医療大学
		寺本千恵	東大
		野口真弓	広島赤十字豊田看護大学
		深井喜代子	東京慈恵会医科大学
		藤田君支子	九州大学
		藤田和佳子	神戸大学
		堀内成子	聖路加国際大学
		真嶋朋子	千葉大学
		松永由理子	千賀大学
操華子	静岡県立大学		
吉永尚紀	宮崎大学		
朝澤恭子	東京医療保健大学		

委員会	役職・担当	氏名	所属機関	名
社会貢献	委員長	大久保暢子 角濱春美 木下真吾 高橋惠子 寺本千恵 松石雄二 松元悦子 水戸優子 横野知江 荒尾博美	聖路加国際大 青森県立保健大 日赤十字大 埼玉大 広島大 東京大 山梨大 神奈川大 新保大 熊本赤十字大	学学学 学学学 学院学 学学学 学学学 学学学 学学学 学学学 学学学 学学学
	会計	吉田みつ子	日本赤十字大	学学学
広報	委員長	西村ユミ 宇宮明美 神崎初美 塩飽仁子 田中マキ 法橋尚宏 細野知子 前田ひとみ 福井里美	東関都立大 関西医科大学 兵庫大 東山戸立大 山神赤十字大 日熊本都立大 東京大	学学学 学学学 学院学 学学学 学学学 学学学 学学学 学学学 学学学
	会計	福井里美	立大	学学学
看護倫理検討	委員長	鎌倉やよ 吾妻知美 高橋梢理 鶴若伊都子 飛田伊恵美 名越恵美 近藤絵美	大島阪成 聖路加 大岡阪医 日赤十字 豊田	学学学 学学学 学学学 学学学 学学学 学学学 学学学
	会計	近藤絵美	立大	学学学
利益相反	委員長	山本則子 鎌倉やよ 國清恭由 角川あけみ 藤田華理 沼田納緒	東京大 群馬大 東大 弘前大 東大 土肥大	院院院 院院院 院院院 院院院 院院院 院院院
	外部委員	沼田納緒	東大	院院院
研究倫理審査	委員長	山本則子 五大嵐奈美 大澤真由香 角川幸江 竹内本彦 隈本邦実 戸塚理緒	東東京大 群馬県立大 群東大 長野大 江野大 長土大	院院院 学学学 学学学 学学学 学学学 学学学 学学学
	外部委員	隈本邦実	立大	学学学
災害看護支援	委員長	西村ユミ 牛久保美津子 大野かお 大神原咲子 近藤麻理恵 三浦英子 國江慶子	東群馬大 群兵庫大 神戸市医 関西赤十字大 日赤十字大 東京大	学学学 学学学 学学学 学学学 学学学 学学学 学学学
	会計	國江慶子	立大	学学学
若手助成選考	委員長	池田真理 浅野みどり グレッグ美鈴 小林福洋子 新上豪二 仲宮千津子 丹野義彦	東修名大 名聖大 広路加 東島大 東大 日京大	院院院 院院院 院院院 院院院 院院院 院院院 院院院
	外部委員	丹野義彦	立大	学学学
研究助成選考	委員長	仲上豪二 清水準一 田口敦子 西村ユミ 法橋尚一 横田慎一郎 吉永尚紀 四谷淳子 麦田裕子 丹野義彦	東東京大 東慶大 東神大 千宮大 福東大 日京大	院院院 学学学 学学学 学学学 学学学 学学学 学学学 学学学 学学学 学学学
	外部委員	麦田裕子	立大	学学学

委員会	役職・担当	氏名	所属機関名
会則等	委員長 會計	鎌倉 や よ い 東 ま す み 池西 悦 ャ ミ 石井 邦 子	神戸 大阪 京都 千葉県 東京都 立保 健医 療大 学学 学学 学学
COVID-19 看護研究等対策	委員長	吉永尚紀 池田真理 加澤佳奈 新福洋子 須釜 淳 子 田中 マ キ 子 友上 滝 二 愛 仲堀 豪 朗 深田 浩 樹 横田 慎 一 郎	宮東岡 京島 藤田 山崎 東大 慶千 崎大 山崎 大田 田口 京大 應義 葉
総務	委員長	田口 敦 子 鷺見 尚 己 仲上 豪 二 朗	慶北 東海 京大 道大 学学 部附 属病 院学 学学 学学
選挙管理	委員長	武村雪絵 香春知永 河野 あ ゆ み 佐藤 由 美 長江 弘 子	東武大 京大 大阪 群馬 亀田 医学 部立 野大 野大 野大 野大

委員会活動報告

(2024年1月～12月)

(1) 和文誌編集委員会（井上智子理事）

学会誌（日本看護学会誌）の発行、投稿の促進、投稿原稿の受付および査読の依頼、採否の決定などを実施。

① 日本看護科学会誌（電子ジャーナル）の発刊

- ・日本看護科学会誌 44 巻をオンラインで発刊した。
- ・2024 年 1 月以降の投稿論文数は、222 編であった（2024 年 10 月現在）。
- ・論文公開時には会員向け一斉メールを配信することで、掲載の周知を行った。
- ・表彰論文選考に参画した。

② 更なる円滑な投稿に向けての取り組み

- ・投稿規程および投稿論文チェックリストを見直し、2024 年 5 月から新しい規程を適用した。

(2) 英文誌編集委員会（グレッグ美鈴理事）

日本から世界へ学術情報を発信するため 2004 年から英文誌 (Japan Journal of Nursing Science「JJNS」) の発行を開始、2014 年からは online-only journal として、年 4 回の発行を実施。また JJNS セミナーも開催。

① Japan Journal of Nursing Science の発行

- ・Japan Journal of Nursing Science Vol.21 をオンラインで発刊した。
- ・2024 年 1 月以降の投稿論文数は、460 編であった（2024 年 9 月末現在）。
- ・表彰論文選考に参画した。
- ・2023 年の Impact Factor は、1.7 であった（2024 年 6 月発表による）。

② 迅速査読の導入

2020 年 3 月、Fast Track Review（迅速査読）の受付を開始した（博士の学位申請、または、博士の学位取得後 1 年以内に論文公開の必要がある会員の投稿が対象）。

（2020 年 19 編・2021 年 30 編・2022 年 38 編・2023 年 44 編・2024 年 9 月末現在、30 編）

③ 発刊 20 周年記念事業（継続）

2023 年は JJNS 創刊 20 周年にあたり、これまでの活動を記念し、さらなる発展を目指して、JJNS 広報の一環として制作したバッジを EAFONS 2024 などで配布した。

④ JJNS セミナーの開催

2023 年 JJNS セミナー：Improving Your Success at Publishing in English 2023 : Social media to promote author's own paper をオンデマンドで開催した（2023 年 12 月 4 日～2024 年 1 月 31 日）。

受講者数は、361 名（会員 360 名・非会員 1 名）であった。

2024 年 JJNS セミナー：Improving Your Success at Publishing in English 2024 : The Challenges

of International Collaborative Research をオンデマンドで開催する（2024年12月中旬～2025年1月末）。

⑤ 学術集会における委員会企画：交流集会、投稿コンサルテーション

- ・第44回学術集会において、交流集会「英語論文の出版に向けて：苦勞と喜びをシェアするグループワーク」を開催予定である。
- ・第44回学術集会において、投稿コンサルテーションを実施する予定である。

(3) 表彰論文選考委員会（有森直子理事）

日本看護科学学会が発行する和文誌と英文誌から優秀賞、奨励賞に相応しい表彰候補論文を選考し、学会として表彰論文の推薦を実施。学術集会演題表彰の実施。また、他組織からの表彰に該当する候補者の推薦も行う。

① 表彰論文の選考

日本看護科学学会が発行する和文誌、および英文誌から優秀賞、奨励賞に相応しい表彰候補論文を選考し、表彰論文の推薦を実施した。

- ・表彰論文選考手順により、和文誌、英文誌の各編集委員会より審査対象論文20編（和文10編・英文10編）の選定を受け、表彰論文選考委員会で優秀賞・奨励賞候補論文8編（和文2編 英文6編）を審査リストとして作成した。
- ・2024年8月2日に、全代議員、役員342名にメールにて採点を依頼した。
- ・9月16日までに返信された225件について評価点の集計を行った。回収率約65%(225/342)。集計結果に基づき最終選考を行い、以下のように優秀賞1編、奨励賞2編を決定し、理事会に報告し承認を得た。

【優秀賞】

- ◆ Clinical trial of a birth and parenting planning program for women diagnosed with fetal anomalies: A feasibility study
Maki Kitazono Chiba, Shigeko Horiuchi, Naoko Arimori
Volume 20:1(JJNS12511)

【奨励賞】

- ◆ Effects of a smartphone app-based diet and physical activity program for men living with HIV who have dyslipidemia: A pilot randomized controlled trial
Maki Aomori 【45歳未満】 , Chiharu Matsumoto, Sanae Takebayashi (非会員) , Nao Matsuyama (非会員) , Yukiko Uto (非会員) , Miho Tanaka (非会員) , Sei Samukawa (非会員) , Hideaki Kato (非会員) , Hideaki Nakajima (非会員) , Hitomi Maeda
Volume 20:3(JJNS12535)
- ◆ Long-term health-related quality of life of total hip arthroplasty patients and cost-effectiveness analysis in the Japanese universal health insurance system
Kanakano Yakushiji 【45歳未満】 , Kimie Fujita, Yasuko Tabuchi(非会員), Yuriko Matsunaga-Myoji, Satomi Tanaka, Masaaki Mawatari(非会員)

※本賞は会員のみ授与される

② 他組織からの表彰候補者の推薦

- ・ 日本学術振興会賞（第 21 回）からの推薦依頼に対して、適格者を選考し、1 名を推薦した。
- ・ 公益社団法人日本看護協会より第 20 回ヘルシー・ソサエティ賞の推薦依頼に対し、「医療・看護・介護従事者部門」で適格者を選考し、1 名を推薦した。

③ 学術集会演題表彰の実施

第 44 回学術集会において演題表彰を実施する。

賞は「優秀演題口頭発表賞」「若手優秀演題口頭発表賞」「優秀演題ポスター発表賞」とし、選考は 2 段階で行った。第 1 段階では、演題抄録を登録する際に使用するシステムを利用して、査読者 2 名以上による採点を行い、各賞上位 5～6 演題を選考した。第 2 段階では、学術集会当日の発表について、表彰論文選考委員会で主に採点をして最終選考を行う。表彰式は行わず、学術集会 2 日目に時間と場所を設定し、受賞者に賞状と記念品を渡し、理事長および表彰論文選考委員会委員長との写真撮影を行うという対応とする。写真は後日学会 HP で公開する。

(4) 研究・学術推進委員会（吉永尚紀理事）

会員の大型研究の推進に関する事業、JANS セミナーの企画・開催、学術集会における委員会の活動の報告、オンラインジャーナルクラブの検討・実施、その他の研究・学術推進に関する事業を実施した。

① 科学研究費助成事業における大型研究獲得支援プロジェクト

- ・ 今年度はコリー紀代氏と小林京子氏の 2 名を採択した。前年度の採択者である土屋雅子氏を含め、3 名に対する支援を行い、科学研究費助成事業への申請が行われた。申請先の種目は、基盤研究 A がコリー紀代氏と土屋雅子氏、学術変革領域研究 A が小林京子氏である。

② JANS セミナーの企画・開催

- ・ 第 24 回 JANS セミナー「変数選択の考え方を知ろう！因果推論のすすめ」をライブ配信（2024 年 9 月 15 日 13 時～15 時半）＋オンデマンド配信（2024 年 9 月 25 日～11 月 25 日）にて開催した。申込数は、ライブ配信：591 名（会員 541 名・非会員 46 名・基礎教育課程学生 4 名）、オンデマンド配信：464 名（会員 440 名・非会員 19 名・基礎教育課程学生 5 名）である（2024 年 10 月 16 日現在）。

③ 第 44 学術集会での交流集会の企画

- ・ 第 44 回学術集会において COVID-19 看護研究等対策委員会との合同企画として交流集会「COVID-19 看護研究等対策委員会の活動に基づく研究成果から考える研究・学術推進」を開催する。

④ オンラインジャーナルクラブ

- ・ 2024 年 1 月 19 日に予定していたオンラインジャーナルクラブは元日に発生した能登半島地震の影響により中止し、2024 年 8 月 8 日（木）14:00～15:30 に改めて開催した。定員 120 名（会員 100 名・学生 20 名）を設定し、事前申し込みでは会員枠は定員に達した。当日は会員・学生を含めて 78 名の参加があった。

(5) 看護ケア開発・標準化委員会（佐藤和佳子理事・山川みやえ理事）

① 新規事業

看護ケアの標準化を促進するために、各学会が行っている Evidence-Based Practice (EBP) の実態や、ガイドライン作成における現状や課題を明らかにすることを目的として、日本看護系学会協議会（以下、JANA）と連携し、調査を開始した。

具体的には、JANA に加盟する学会の理事や EBP に関する委員会の担当者を対象とし、ウェブアンケートと希望者へのインタビュー形式で調査を進めていく。この調査では、ガイドライン作成の経験や、その普及状況、必要なリソースなどを洗い出し、今後の方向性を探る予定である。

さらに、この調査結果は、2024 年 12 月に開催される JANS44 の交流集会で公表される予定であり、各学会が作成したガイドラインを集約し、JANA のウェブサイト上で活用できるプラットフォームの構築を目指している。このプロジェクトを通じて、看護ケアの標準化がさらに進み、社会全体への還元が実現されることが期待されている。

② 継続事業

1. 看護ケアガイドライン作成モデル事業

看護ケアのための高齢者排尿促進法（Prompted Voiding:PV）（診療）ガイドライン（仮称）を、Minds 作成マニュアル Ver.2020 に準拠し作成を継続した。（発刊予定 6 月）

具体的作成工程

- 1) 統括委員会・作成委員会・システムティック・レビューチーム再構成, COI 申告 (2 月)
- 2) 作成委員会開催・ガイドライン本文作成、システムティックレビュー継続 (3 月)
- 3) JANS 監修 ガイドライン出版方法に関する準備工程の確認 (5 月—6 月)
- 4) ガイドライン最終構成について検討—タイトル・バックグラウンドクエスチョン (BQ) ・
クリニカルクエスチョン (CQ) 構成 (7 月)
- 5) Minds ライブラリー掲載審査通過のための検討を開始 (8 月)
- 6) 推奨度決定のためのパネリスト 2 名 JANS より委嘱 (9 月)
- 7) ガイドライン全体草稿作業継続 (4 月～11 月)

2. 「尿失禁を有する高齢者の生活習慣 (Lifestyle) 介入」のスコアリングレビューを実施した。専門家の協力を受け解析中。

3. 診療ガイドライン関連会議等の参加

- ・ 第 2 回医学統合統括連絡会議出席 (9 月 6 日)、学会代表枠・ガイドライン統括委員長枠 (2 名)
- ・ 第 27 回ガイドライン作成に関する意見交換会参加 (11 月 2 日)

(6) 若手研究者活動推進委員会（仲上豪二郎理事）

日本学術会議若手アカデミーをはじめ、国内外の多学問分野の若手研究者と積極的な交流を図る。また、学術集会での交流集会の定例的な企画・運営を通して若手研究者を育成し、将来的な看護学の発展に寄与する。

① 委員会としての活動

- ・ JANS 若手の会ホームページでの情報発信を行った。当委員会の企画について、事前予告に加え、当日の概要に関する事後報告も行った。また、JANS 若手の会ホームページについて、若手研究者活動推進委員会の活動の可視化、若手メーリングリストやイベントの広報、今後の更新のしやすさと汎用性の向上を目的に、ウェブサイトの修正案を作成し、改修を行った。今後引き続きウェブサイトを通じて情報を発信する。
- ・ JANS 若手の会メーリングリストより情報の発信をした。登録者数は2024年10月現在で計973名であり、2023年10月時点の951名より増加傾向である。当委員会企画の事前予告・事後報告ならびに登録メンバーによる研究・研修活動やイベント投稿が行われた。

② JANS セミナーの開催

- ・ 第23回 JANS セミナー「創発的看護学研究のためのリサーチマインド・マネジメント」(オンデマンド配信)の申込み・配信をした(配信期間:2024年3月18日~5月31日)。参加者数は830名(会員:807名、非会員:9名、学生:14名)であった。

③ エリア検討会開催支援

- ・ JANS 若手の会 エリア・コーディネーターが主体で企画・運営するエリア検討会の開催支援を行った。開催されたエリア検討会は以下の5件である。第3回関西エリア検討会(2024年1月27日)、第6回中四国エリア検討会(2024年3月9日)、第6回北関東エリア検討会(2024年3月10日)、第4回東海エリア検討会(2024年6月30日)、第7回北関東エリア検討会(2024年9月1日)。開催したエリア検討会は、それぞれの開催報告を JANS 若手の会ホームページ上に順次掲載している。

④ エリア・コーディネーター活動の活性化

- ・ エリア・コーディネーター間の交流を促すことを目的に、JANS エリア・コーディネーター用 Slack ワークスペース(2022年3月末開設)を引き続き運営した。エリア間およびエリア内のエリア・コーディネーターの交流の場として活用された。
- ・ 次期エリア・コーディネーターの募集に関する情報発信と検討が行われた。

⑤ 第44回学術集会での交流集会の企画

第44回学術集会において交流集会「えっ!どうしたらいいの?初めての論文投稿に必要な”暗黙知”を共有しよう」を開催予定である。

⑥ 日本学術会議 若手アカデミーへの参画

「学術の未来を担う人材育成分科会」、「若手主導の異分野融合研究の推進に関する分科会」に参画した。

(7) 国際活動推進委員会(池田真理理事)

国際学会での優れた日本の研究成果を発信していくことを目的にセミナー・支援策を企画する。また、国際的な看護学研究機関とのネットワークの構築を目指す。

① 委員会企画 交流集会

第44回学術集会において、交流集会「国際メンターシップ・プログラムで育つ!グローバルな看護研究者」を開催予定である。

② 異文化看護データベース

異文化看護データベースの更新について以前より検討していたが、全国の看護職他に利用していただいていることや、毎月平均 300 回のアクセスがあることが明らかになったため、当初の目的に合わせて、随時積極的に更新していく方針とした。応募サイトを掲載し、会員から募集した。2024 年においては応募者 17 名のうち 7 名に依頼した。担当分野は、大韓民国、ブラジル、アメリカ、ミャンマー、フランス、キリスト教プロテスタント、キリスト教カトリックである。すでに 5 名から原稿の提出があり、複数の委員により校正中である。

③ 世界看護科学学会 (World Academy of Nursing Science : WANS) への協力支援

- ・第 8 回世界看護科学学会学術集会が 2024 年 8 月 21-22 日に、Indonesian National Nurses Association (INNA) の主催で、International Conference by INNA と同時にインドネシアにおいて開催された。
- ・WANS 学会の運営委員会からの依頼で、プログラムの演題査読者の依頼があり、メール会議において、委員会より、操華子氏およびグレッグ美鈴氏を推薦し実施した。

④ JANS 若手研究者メンター制度企画

Early-career 看護研究者の国際活動及び国際交流の推進並びに、看護学の発展とキャリア形成に寄与する、Early-career 看護研究者を対象とした国際メンターシップ・プログラムを設立した。これは、Early-career 看護研究者 (メンティ) が、看護研究のエキスパート (メンター) より英語で研究のメンタリングを受ける制度である。委員の推薦と交渉により、4 名の海外研究者にメンターを依頼する運びとなった。8 月 8 日から 9 月 27 日にかけてメンティ募集を行ったところ 9 名の応募があったため、10 月 1 日に委員会を開催し、ブラインドで投票を実施し、4 名のメンティを決定した。4 名のメンターには理事長・国際活動推進委員会からの依頼書とガイドラインが発送され、現在 (10 月中旬)、初回面接の準備に取り組んでいる。

(8) 看護学学術用語検討委員会 (大久保暢子理事)

看護学が扱う専門用語 (看護学学術用語) の概念的統一を図り、これまでに作成した用語を維持管理・普及を行うシステム構築の検討を実施。また新たな用語を検討・追加するための以下の委員会活動を行った。

① JANSpedia への新用語追加の審査および英訳

- ・新用語の募集に関する広報を紙面ポスターならびに会員メーリングリストにて行い、募集を行った。
- ・申請された新用語: 4 用語について審査を行い、計 3 用語の新しい用語を JANSpedia に掲載した。英語サイトの作成を進めるために 100 の用語と 14 の新用語の解説の英語翻訳を終え、それを委員等の看護専門家でも英語の文章チェックを行っている。2025 年 2 月までに全ての用語の解説の英語版が完成する。HP の改修に合わせて掲載する予定である。

② 実装評価について(JANSpedia のアクセス分析など)

- ・ JANSpedia のアクセス分析、看護学学術用語の構築・実装の視点から委員会活動の評価を継続検討している。
- ・ 看護系研究論文や看護系大学の授業資料等で JANSpedia の用語が引用されている。
- ・ 2022 年度～2024 年 10 月までに計 15 用語の評価を行った。

③ 看護学学術用語追加の審査システムと JANSpedia サイトの操作の両マニュアルの作成

- ・ 用語追加の審査基準や審査プロセスの統一化ならびに次期委員会への適切な引継ぎのためにマニュアル作成を進行中である。
- ・ JANSpedia の電子サイトについても統一した操作を明確にするため、次期委員会への適切な引継ぎのためにマニュアルを作成中である。

④ 第 30 回日本看護診断学会学術集会での教育講演の開催

- ・ 第 30 回日本看護診断学会学術集会からの依頼を受け、教育講演「看護学における学術用語の構築と普及」を行った（2024 年 7 月 27 日神戸国際会議場）。

(9) 社会貢献委員会（大久保暢子理事）

一般市民を対象に看護学を通じた社会への貢献やその方策の研究、普及を目的に、学術集会開催時に「市民公開講座」や次世代の看護学研究者育成事業などを実施。

① 第 44 回学術集会において市民公開講座を開催

第 44 回学術集会で市民公開講座「快うん防災 - もしもに備えて、日ごろから「気持ちよく出す」ことを整えましょう -」を開催する。

日時：2024 年 12 月 8 日 14：30～15：30（予定）

会場：市民会館シアーズホーム夢ホールで対面開催予定

講師：榊原千秋氏（うんこ文化センターおまかせうんタッチ代表）

② 次世代の看護学研究者発掘・育成事業の展開

- ・ 次世代の看護学研究者発掘・育成事業として、中高生を対象とした「次世代研究者発掘育成プログラム」を立案し検討ならびに実施を行った。
- ・ 「次世代研究者発掘育成プログラム」は、「人の幸せにつながる科学を探求しませんかー看護学への招待ー」をメインテーマとして、「次世代研究者の発掘育成プロジェクト広報サイト(<https://jans.jp/>)」を 2023 年に立ち上げた。サイト内では、中高生が視聴する「未来の看護研究者となる皆さんに伝えるストーリー」として看護学研究者のドキュメンタリー動画が掲載されており、さらに、「看護学の研究者として生きる」のサイトページでは、現在 6 名の若手看護学研究者のインタビュー記事を公開している。また他サイトページでは国内外の看護学研究者の状況を情報発信した。
- ・ 次世代研究者発掘育成プログラムのコンテンツを題材にInstagramを立ち上げ、情報を公開した。さらに看護学研究者の研究テーマや看護について考えていることなどをインタビュー形式で動画撮影を行い、計 50 本のショート動画を発信した。
- ・ 上記のドキュメンタリー動画は YouTube よりフルバージョン (<https://www.youtube.com/watch?v=78p.jvsQpGMg&t=22s>) と

ショートバージョン (<https://www.youtube.com/watch?v=INoJ6ew0ark>) として公開中であり、2 例目のドキュメンタリー動画が 2025 年 3 月に完成予定である。

③ 次世代看護学研究者発掘・育成プログラム インスタライブ開催

開催日時：a.2024 年 3 月 27 日 19 時～19 時 30 分（30 分間）

b.2024 年 10 月 11 日 19 時～19 時 30 分（30 分間）

テーマ：a.日本看護科学学会・社会貢献委員会主催による高校生の質問に答えます！

「看護学の研究者って何するの？」

司会進行：社会貢献委員、ゲスト：高校 2 年生 2 名

b. 日本看護科学学会・社会貢献委員会主催による中高校生・大学生対象の質問会

「看護学研究者の魅力とは？」

司会進行：社会貢献委員

ゲスト：ドキュメンタリー動画主人公 筑波大学発達支援看護学 涌水理恵先生
看護系大学の学生 2 名

(10) 広報委員会（西村ユミ副理事長）

日本看護科学学会の広報活動を担当、委員会成果物の公表、学術集会の周知（プレスリリース等の作成・配布、当日の記録の保存）、学会ウェブサイトの定期的な更新や維持・管理等を実施。

① ウェブサイトの維持・管理・改善・リニューアル

- ・ 本会公式ウェブサイトの維持・管理・改善を事務所と協力のうえ定期的に行った。
- ・ ウェブサイトのリニューアルについて、委託業者を決定し、本年度末の公開に向けて取り組んでいる。

② 学術集会等の広報活動

- ・ 第 43 回学術集会の様子を記録として本会ウェブサイトに掲載した。
- ・ 第 44 回学術集会の市民公開講座の広報活動、プレスリリースの作成・配布を行った。

③ 委員会成果物の公表

- ・ JANS 研究論文を実践へトランスレーションする企画「看護研究の玉手箱」において、2023 年度表彰論文の追加掲載を行った。
- ・ 2024 年度の表彰論文の紹介方法について、映像を用いた方法に変更することを検討した。

④ 広報用マスコットキャラクターの活用

- ・ 学会マスコットキャラクター（ジャンとスウ）を第 44 回学術集会にて活用するとともに、マスコットキャラクターを用いた映像を広報に活用するための方法について検討した。

⑤ デジタル広報の推進

- ・ **Facebook** ページ（会員が交流できる会員フォーラム）を活用し会員と交流した。
- ・ 第 44 回学術集会の様子を記録する方法に映像を取り入れ、一般の方々への学会活動の広報を進めた。

⑥ 戦略的広報

- ・ 専門家にコンサルテーションを受け、効果的かつ戦略的広報を推進した。

(11) 看護倫理検討委員会（鎌倉やよい理事）

本委員会は、看護学に関する倫理を検討し、看護学が関連する研究・教育・臨床における倫理的課題の整理および即時的対応、研究者のモラル向上に向けた活動、看護学が関連する倫理的社会的な事象に対する情報収集・提供と学会としての対応策の検討と社会に向けた見解の発信を実施する。

- ① 日本看護系大学協議会が「看護学教育における倫理指針改訂版（2008年12月）」を改訂し、「看護学教育における倫理綱領」（案）として2024年3月30日に周知された。これについて検討し、意見を日本看護系大学協議会に提出した。
- ② 理事長から、既に学術集会で発表した抄録の取り下げ申請に関する委員会の見解を求められて、申請理由等を慎重に検討し、「取り下げることはできない」との結論を導き、回答した。
- ③ 看護学が関連する倫理に関する講演会開催に向けて、検討を開始した。

(12) 利益相反委員会（山本則子理事）

役員等の潜在的利益相反判定を実施し、該当の案件について判定し、不適切な事象が起こらないようマネジメントする。また、重大なCOI状態が生じた場合は、本委員会が諮問し答申に基づき改善措置を実施する。

- ・ 日本看護科学学会における利益相反マネジメント指針・細則の見直しを行い、学会顧問弁護士、委員会委員との審議による修正案を理事会に諮り承認され改正した。
- ・ 日本看護科学学会における利益相反マネジメント指針・細則の改正に伴い、ホームページにおける説明内容を変更した。
- ・ 和文誌・英文誌投稿時の利益相反申告を引き続き実施した。
- ・ セミナー等の講師の利益相反申告に対応した。
- ・ 日本看護科学学会における学術活動の利益相反と諸規則との整合性を検討した。
- ・ 学術集会における発表者を対象とした利益相反申告システムの導入に向け、システム内容の検討・整備および業者選定を行った。
- ・ 4月から同システム運用開始。大きなトラブルなく稼働している。（9月27時点：1357件）

(13) 研究倫理審査委員会（山本則子理事）

学会員による人を対象とした看護研究が、倫理的配慮のもとに行われるかどうかを審査する。

研究倫理審査の実施

- ・ 外部機関からの本学会研究倫理審査に関する問い合わせに対応した。
- ・ 申請に対し2024年2月20日メールによる簡易審査を行った。
- ・ 申請に対し2024年5月24日メールによる簡易審査を行った。

(14)災害看護支援委員会（西村ユミ副理事長）

- ・看護系学会、および防災学術連携体等と連携し情報収集や災害時の活動について検討している。
- ・「COVID-19 感染拡大状況に伴う日本看護科学学会会員である看護職の派遣支援活動と支援ニーズの実態」（2022年7～8月調査）の調査内容について、さらに分析しなおして英訳し、“Association between anxiety and factors before and after dispatch support activities regarding the COVID-19 pandemic among Japanese nursing researchers”として、本学会英文誌に掲載された（JpnJ Nurs Sci 2024 : 21 : e12608）。
- ・災害に関するセミナー、シンポジウム、講演会等、必要な災害看護支援や研究課題に関する情報を収集し、学会HPやメール配信を通して会員への情報提供を行った。
- ・会員を対象とした、災害発生時緊急調査「災害に伴う研究活動への影響に関する調査」を計画し、令和6年能登半島地震発生に伴い調査を実施した。緊急調査の結果から、研究活動への影響や支援活動の実態、支援ニーズ等を把握した。調査結果の報告書（第一報）を本学会HPに掲載した。支援ニーズへの対応、及び成果報告の準備をしている。調査結果に基づいた発表等としては、The 8th International Research Conference of World Society of Disaster Nursing（WSDN2024）のPoster with Lightning Talk“Effective approach to accumulate knowledge of disaster-related nursing practice and research”、及びJANS44での交流集会「テーマ：災害に伴う研究活動への影響：能登半島地震の調査をもとに」にて報告する。
- ・日本災害看護学会、日本看護系大学協議会、日本看護系学会協議会と能登半島地震への支援活動に関する情報交換を行い、委員会活動に活かした。

(15)若手研究者助成選考委員会（池田真理理事）

2020年からの準備委員会の活動を経て、2021年4月から若手研究者への助成を開始した。

① 若手研究者が国外で開催される学術集会へ出席するための助成

- ・2022年度から随時募集としている。
- ・2024年は9月末現在、申請はない。

② 若手研究者が海外留学するための助成

- ・2022年度から随時募集としている。
- ・4件の申請があり（2024年9月末現在）、海外留学について助成を決定した。
決定者は以下のとおりである。

氏名（敬称略）	計画名	金額
キタ 幸子	ジェンダーに基づく暴力当事者のホリスティックなリカバリーを促す効果的で国際汎用性が高い支援方法の開発：日米共同研究	1,985,000 円
佐伯 昌俊	高度実践看護師に対する役割期待と臨床への役割実装	1,000,000 円
桜井 美果	高齢者と家族介護者への地域での支援	2,000,000 円
本田 光	申請者によるオリジナル尺度翻訳版の開発と育児の孤立の異文化間比較	2,000,000 円

(16) 研究助成選考委員会（仲上豪二朗理事）

2022年7月から会員向けに研究助成の申請を開始している。

① 研究助成規程の改正

第6条に免除減免措置の制度に関する文言を追加した。

② 2023年度助成事業採択者による完了報告および延長の申し出

- ・ 正会員(大学院生・ポストドクター)が研究を行うための挑戦的課題研究助成11名のうち6名がJANS44研究助成セッションで報告予定、4名は延長希望、1名は次年度報告予定。
- ・ 正会員(除く大学院生・ポストドクター)が研究を行うための指定課題研究助成4名のうち1名がJANS44研究助成セッションで報告予定、2名は延長希望、1名は次年度報告予定。

③ 2024年度助成事業採択者への助成金支給

- ・ 正会員(大学院生・ポストドクター)が研究を行うための挑戦的課題研究助成11名
- ・ 正会員(除く大学院生・ポストドクター)が研究を行うための指定課題研究助成4名
- ・ 資金の確保 等

④ 2025年度の募集要項の作成と決定および募集

- ・ 募集期間：9月6日～10月31日
 - ・ 選考期間：11月下旬～1月頃の1ヵ月程度
- 選考委員会：1月中旬から下旬

(17) 会則等委員会（鎌倉やよい理事）

本委員会は、定款や各種規定等の見直しを通して公益社団法人として継続的かつ発展的な学会運営を行う。

① 理事長からの依頼に基づき、学生会員の新設に伴う規程類の改正内容の検討

学生会員の新設に関する総務会からの依頼を受けて、定款、定款細則及び会員資格基準の改正案について、改正事項の点検と改正内容を検討して意見提出し、最終案を導いた。

② 理事長からの依頼に基づき、第6章学会総会に関する改正案の検討

公益社団法人の決議機関は社員総会であり、定款第4章に「社員及び社員総会」が規定されている。日本看護科学学会では、第6章に「学会総会」が規定され、学会総会の権限が「本会運営上の重要事項について、理事会に対して意見を具申する。」とされ、社員総会と同様の項目が規定されている。しかし、法人法による必要条件ではないこと、近年学会総会での決議がないこと、会員の意見を広く聴取するためにオンライン会議の可能性も模索したいこと等の理由により、理事長から改正案作成の依頼があった。この依頼を受けて、改正内容を検討して理事長に提出した。

③ 定款の修正に伴う下位規程等の見直しの検討

学生会員の新設の定款改正に基づき、関連する下位規程、申し合わせ等を確認して選別し、理事長に改正案を提出した。

また、研究助成規程、研究助成資金取扱細則、研究助成選考細則、及び研究助成選考に関する申し合わせについて、各規程の関係性、内容を確認し、「研究助成規程」、「研究助成資金取扱内規」、及び「研究助成選考内規」として整備し、改正案を理事長に提出した。若手研究者助成規程についても同様に整備し、改正案を理事長に提出した。

さらに、研究論文表彰に関する内規、学術集会演題発表等表彰に関する規程について、点検整備を進めている。

(18) 総務委員会（田口敦子理事）

学会事務所の運営、会員の入会審査、会員管理を実施した（会員数等については、総務報告を参照）。

① 入会審査、会員管理の実施

入会審査、会員管理は IT の導入による合理化と効率化を推進、併せて個人情報の扱いにも細心の注意を払った。2024 年の入会審査数は、762 名であった（2024 年 10 月現在）。

② 会員資格基準の変更および学生会員の創設

会則等委員会と検討し、会員資格基準の変更および学生会員の創設を決定した。なお、学生会員については会費請求やシステム構築準備のため、2025 年 1 月以降の運用を予定している。

③ 学会事務所の運営

- ・学会事務所は、社会への本会の窓口であり、学会管理や他の委員会活動を支える拠点と意識して運営・管理を心掛けた。
- ・事務所職員と緊密に連携をとり情報共有に努めた。併せて定期的な事務所の訪問と職員との面談を実施し、各職員の担当業務や業務遂行状況の把握を行った。
- ・理事会、社員総会、学会総会に関し、役員確認に先立って議事録の確認を行うことで、役員の確認業務軽減と正確な記載内容の徹底に努めた。
- ・パートスタッフが 2024 年 3 月末で定年退職するにあたり、以前から検討していた会計処理の安全管理体制の充実を図り、加えて事務所運営の安定化とスタッフの世代交代に備え、常勤職員を 1 名採用し、常勤職員 6 名の事務所体制とした。

(19) COVID-19 看護研究等対策委員会（吉永尚紀理事）

本委員会は、新型コロナウイルス感染症の拡大によって生活が一変した社会において公益社団法人日本看護科学学会の定款第 2 条に定める「看護学の発展を図り、広く知識の交流に努め、もって人々の健康と福祉に貢献する」に基づき、この COVID-19 の状況下で何ができるのかを実践するために時限的（2～3 年）な活動をすることで理事会承認により設置された。なお、今期をもって当委員会の活動は終了とし、来期以降の寄託データの問合せへの対応等は、研究・学術推進委員会で引き継ぐ予定である。

① 第 1 回・第 2 回調査で取得したデータ（自由回答の結果を除く）の寄託・公開についての日本看護系学会協議会（JANA）社員学会への案内メール配信完了

- ・委員会プロジェクトとして行った「新型コロナウイルス感染症による日本看護科学学会（JANS）会員の研究活動への影響と学会に求める支援に関する調査」の取得データ（自由回答の結果を除く）について、2023 年 2 月に東京大学社会科学研究所附属社会調査・データアーカイブ研究センターに寄託したものが公開された。この二次利用可能データは、学術研究・教育目的の利用であり、かつ、大学又は公的研究機関の研究者、教員の指導を受けた大学院生が利用できるため、理事会の承認を得て日本看護系学会協議会（JANA）事務局から社員学会へのメール配信を行った。

② 第1回・第2回調査で取得したデータにもとづく分析・論文投稿状況

- ・委員会メンバーが行った分析結果（筆頭：加澤委員）と、分担研究として分析・論文執筆を行う4つの研究班のうち2つの班の論文が受理・オンライン公開された。
- ・ Kazawa K, Yoshinaga N, Tomotaki A, Yokota S, Nakagami G, Fukahori H, Shimpuku Y, Ikeda M, Tanaka M, Sugama J. Changes in research activity and obstructive factors among nursing researchers during the first 2 years of the COVID-19 pandemic: A longitudinal study. *Journal of International Nursing Research*. (in press)
- ・ 原あずみ, 池田真理, 深堀浩樹, 加澤佳奈, 吉永尚紀. COVID-19 拡大状況下における看護系大学教員の研究活動上の肯定的変化: Web 調査の自由記述の質的内容分析. *日本看護科学会誌*. (in press)
- ・ Mitoma M, Tanaka M, Shimpuku Y, Yokota S, Yoshinaga N. Nursing researchers' concern about research activities during the COVID-19 pandemic: A secondary analysis of longitudinal survey data in Japan. *Research in Nursing and Health*. 2024;47(5):522-531.

③ JANS44@熊本での交流集会企画

- ・ 研究・学術推進委員会との合同企画として、「COVID-19 看護研究等対策委員会の活動に基づく研究成果から考える研究・学術推進」と題した交流集会を実施する予定である。

④ 一連の委員会活動・成果のまとめ

- ・ JANS44@熊本での交流集会に加えて、日本看護科学会誌での本委員会発足以降の活動や研究成果の概要・報告の掲載に向けて、準備を進めている。

(20) 選挙管理委員会（武村雪絵委員長・田口敦子理事）

2025年選出理事候補者選挙準備

- ・ 理事選挙に関する公示文書、投票要領、選挙人名簿と被選挙人名簿の作成、投票手順、今後のスケジュール等について確認を行った。（郵便料金値上げのため、郵送資料について見直し）

(21) 他機関との連携活動

① 日本看護系学会協議会（JANA）（西村ユミ副理事長）

- ・ 意見交換会へ出席した。
日時：2024年2月27日（火）18:00～19:30
方法：Zoomによるオンライン開催
内容：委員会体制になったJANAの方向性について
各社員学会との今後の連携について
- ・ その他、JANAから提供された情報を必要に応じ会員、役員にメール配信し共有した。
- ・ 医療事故報告制度に関する支援の一環として、一般社団法人日本医療安全調査機構からの依頼により、2024年はここまでに4名の会員を個別調査部会員等に推薦した。この協力については2016年度から行っており、56名の会員を推薦してきた。

② 看護系学会等社会保険連合（看保連）（大久保暢子理事）

- ・看護系学会等保険連合の2024年度研究助成推薦について、本会からの承認希望を募ったところ1名の応募があり、社会貢献委員会で審査し承認となった。
- ・看保連理事として、各会議並びに理事会に出席し、看保連20周年事業の企画をおこなった。

③ 日本学術会議（西村ユミ副理事長）

- ・日本学術会議から提供のあったニュース・メールを役員に提供した。
- ・日本学術会議公開シンポジウムの後援となり、会員に開催情報を提供した。

④ その他の機関（西村ユミ副理事長）

医療事故調査・支援センターからの以下のお知らせを会員に周知した。

- ・第5回 医療事故調査・支援センター主催研修
テーマ『「医療事故調査制度」を活用した院内医療安全活動の実際』
会場受講：2024年10月26日（土）13:30～16:30
オンデマンド配信：2024年11月11日（月）12:00～2025年2月25日（火）23:59
- ・LINE・an なび（メール配信サービス）開始
公式LINE・an なび：https://www.medsafe.or.jp/modules/news/index.php?content_id=335
医療安全に関する情報（提言・動画等）
配信開始は10月9日（水）から

第1号議案

公益社団法人 日本看護科学学会 2025年度事業計画（案）

（2025年4月1日～2026年3月31日）

(1) 学術集会

- ・第45回日本看護科学学会学術集会準備

第45回学術集会会長：有森 直子（新潟大学）

日程：2025年12月6日（土）・12月7日（日）

場所：朱鷺メッセ 新潟コンベンションセンター

- ・第46回日本看護科学学会学術集会開催

第46回学術集会会長：西村ユミ（東京都立大学）

日程：2026年12月12日（土）・12月13日（日）

場所：東京国際フォーラム

- ・第47回日本看護科学学会学術集会準備

(2) 和文誌編集委員会（井上智子理事）

- ・ 日本看護科学会誌第45巻を発行する。
- ・ 必要であれば投稿規程、査読ガイドライン等の改定を行う。
- ・ 学会誌への投稿・掲載の推移を公開し、編集委員・査読者の活動を支援する。

(3) 英文誌編集委員会（グレッグ美鈴理事）

- ・ Japan Journal of Nursing Science Vol.22 を発行する。
- ・ JANS 関連行事にてプロモーション活動を行う。
- ・ JJNS セミナー2025 を開催する。
- ・ 質の高い論文の掲載のために、査読システムを整備する。

(4) 表彰論文選考委員会（有森直子理事）

- ・ 表彰論文の選考を行い、優秀賞・奨励賞を公表する。
- ・ 学術集会における演題表彰制度を運用し3賞の選考を行い、演題表彰を実施する。
* 優秀演題ポスター発表賞、優秀演題口頭発表賞、若手優秀演題口頭発表賞
- ・ 他機関からの表彰の推薦依頼に関する候補者の推薦を行う。

(5) 研究・学術推進委員会（吉永尚紀理事）

① 会員の研究の支援活動

- ・大型研究費の獲得支援活動を継続して行う。運営方法を検討しつつ、公募、審査、支援を実施する。
- ・オンラインジャーナルクラブを継続して行う。運営方法を検討しつつ、定期的を開催する。

② セミナー・交流集会

- ・JANS セミナーの企画・開催を行い、事務局とアーカイブの管理を行う。
- ・学術集会における交流集会を企画・開催する。

③ その他

- ・「新型コロナウイルス感染症による日本看護科学学会員の研究活動への影響と学会に求める支援に関する調査（第1回、第2回）」について、東京大学社会科学研究所附属社会調査・データアーカイブ研究センターに寄託したデータ（2次利用可能データ）について、利用申請等に関する問い合わせ対応、成果物の集計等を行う。
- ・その他、研究・学術推進に関する事業を企画・検討する。

(6) 看護ケア開発・標準化委員会（佐藤和佳子理事・山川みやえ理事）

1. 【JANA・JANS 連携事業】看護ケア開発・標準化のための看護ケアガイドラインの現状と調査結果（現在進行中）を基に以下のような計画で活動する。

1) アクションプラン策定の検討

各学会のガイドライン作成・普及に対するニーズを整理し、当委員会が提供すべき支援内容を明確化する。必要に応じて JANA と連携して策定する。

2) 学会間連携推進の検討

JANA および各専門学会との連携を深め、ガイドライン作成や普及に関するリソースの共有を推進する。共同プロジェクトを通じて、標準化の加速を目指す。

3) アクションプランに基づくガイドライン作成プロセスへの支援策の検討

ガイドライン作成プロセス（含む普及啓発、モニタリングおよび適切なフィードバック等）への本委員会の具体的機能について検討する。

2. 2019 年度モデル事業の看護ケアガイドラインを発刊する。同時に、作成過程を可視化し、看護ケアガイドライン作成過程の課題と工夫に関する情報を整備する。

(7) 若手研究者活動推進委員会（仲上豪二郎理事）

- ・エリア・コーディネーターとの連携を強化するために、エリア・コーディネーター会議を開催し、エリアごとに実施することと全体で実施することを明確化する。

- ・ エリア別活動（エリア検討会等）の活性化のための支援を行う。
- ・ 学術集会での交流集会を企画・運営する。
- ・ 日本心理学会との連携強化のための活動を行う。
- ・ 広報活動の充実を図る（学会ウェブサイトの更新、若手メーリングリスト運用）。
- ・ 学生会員の増加および JANS 活動への参画を促すための、具体的な方法を検討する。
- ・ 若手ネットワーク活性化のための交流方法を検討する。
- ・ 若手研究者向けの研究方法 **How to** をテーマとしたセミナーシリーズを企画・開催する。

(8) 国際活動推進委員会（池田真理理事）

- ・ 国際学会での研究発表の増加施策としてセミナー等の企画を行う。
- ・ 国際的研究活動への参加支援を若手研究者助成選考委員会と協働で実施する。
- ・ JANS ホームページ内「異文化看護データベース」を更新する。
- ・ 海外の研究者および学術団体と交流するための活動を行う（メンターシッププログラムなど）。
- ・ 世界看護科学学会（WANS）の会員学会として、WANS 学術集会の会員への周知、および運営などへの協力を行う。

(9) 看護学学術用語検討委員会（大久保暢子理事）

- ・ 電子システム(JANSpedia)に掲載する新しい看護学学術用語の随時募集と審査のシステムの課題を明確にし、JANSpedia の実装を促進し、実装評価と修正を継続する。
- ・ 既存の 100 の看護学学術用語のブラッシュアップを目的とした募集と審査を行い、JANSpedia の更新を行う。
- ・ 英語版 JANSpedia の海外発信を学会発表や広報を通じてグローバル化を促進させる。
- ・ 日本語版と英語版 JANSpedia の両方の実装評価を行う。

(10) 社会貢献・広報委員会あるいは、広報・社会貢献委員会（仮称）（西村ユミ副理事長／大久保暢子理事）

- ・ 新設のホームページ（日本語・英語）の管理を行い、経時的な各サイトページのアクセス分析をもとに戦略的な広報を展開し、広報活動としての実装評価を行う。
- ・ 学術集会に関する広報活動（①次回学術集会企画委員会との連携による学術集会の広報活動、②学術集会の記録）を行う。
- ・ 各委員会が担当するサイトについての管理を行い、広報を行うことで、委員会の活動内容を会員や社会に周知する。
- ・ 第 45 回学術集会にて「市民公開講座」を開催すると共に、市民公開講座のアーカイブ化を行い、会員への情報提供を可能にする。

- ・ 次世代看護学研究者発掘・育成プログラムとして、中高生を対象としたサイトの作成（表彰論文を紹介する「看護研究の玉手箱」を含む）と交流会を開催することで、看護学研究者となる次世代に対する社会貢献事業の実装と評価を行う。
- ・ Facebook ページは会員が交流できる会員フォーラム、YouTube チャンネル、及び Instagram を電子的広報の場として活用する。
- ・ 学会のマスコットキャラクター（ジャンとスウ）を広報活動に活用する。
- ・ WANS に関連した広報（①WANS 学術集会の広報、②WANS 学術集会における JANS の広報）について検討する。

(11) 看護倫理検討委員会（鎌倉やよい理事）

- ① 看護学に関連する「倫理的課題のある社会事象」に対する情報収集と対応案を検討する。
「倫理的課題のある社会事象」について情報を収集し、必要時に学会としての対応案の検討と社会に向けた見解の発信を行う。
- ② 研究倫理の遵守及び研究活動不正防止について啓発活動を行う。
啓発活動を目的として、講演会（Web）を開催する。

(12) 利益相反委員会（山本則子理事）

- ・ 役員、委員会委員、和文誌・英文誌投稿者、学術集会における発表者を対象に COI を実施し、評価を行う。
- ・ 日本看護科学学会における学術活動の利益相反マネジメント指針・細則・COI 申告書を必要に応じて修正・更新する。
- ・ 昨年度より導入した学術集会における発表者を対象とした利益相反申告システムを評価し、必要に応じて修正を検討する。

(13) 研究倫理審査委員会（山本則子理事）

- ・ 申請があり次第、倫理審査（メール審査、委員会招集審査のいずれか）を行う。
- ・ 産学共同研究、起業看護職（自営等も含む）の研究倫理審査での利益相反委員会との連携を行う。
- ・ その他、研究倫理審査に関わる事項の検討をする。

(14) 災害看護支援委員会（西村ユミ副理事長）

- ・ 災害に関するセミナー、シンポジウム、講演会などに参加して、必要な災害看護支援や研究課題に関する情報収集、および会員への情報提供を行う。
- ・ 研究者の実施等に影響が及ぶ災害が起こった際、会員を対象とした「災害に伴う研究活

- 動への影響に関する調査」を実施する。調査結果は会員と共有し、対応が必要な課題について支援策を検討する。検討にあたっては、防災学術連携団体等との連携ができるよう体制を整える。調査結果は、学会等での口頭発表、あるいは論文として広く周知する。
- ・ 災害看護支援に関する交流集会等を企画・運営する。

(15) 若手研究者・研究助成選考委員会（仮称）（池田真理理事・仲上豪二郎理事）

年度の募集と実施、前年度実施助成の確認等について

(1) 若手研究者助成選考委員会（池田真理理事）

- ① 海外で開催される国際学会発表への助成
随時応募受付
- ② 海外留学への助成
2025年度中に開始される海外留学への助成（随時応募受付）
- ③ 選考委員会の開催
上記①、②の申請により選考を実施の予定。
採択案を理事会に提出する。
- ④ 前年度助成に関する報告書の確認、学術集会での発表、英文誌への投稿の推進

(2) 研究助成選考委員会（仲上豪二郎理事）

- ① 2023年度、2024年度助成実施事業の確認
報告内容と成果の確認、学術集会での助成セッションの実施など
- ② 2026年度の募集
正会員（大学院生・ポストドクター）が研究を行うための挑戦的課題研究助成
正会員（除く大学院生・ポストドクター）が研究を行うための指定課題研究助成
募集期間：2025年9月～10月（予定）
選考委員会の開催：2025年12月～2026年1月（予定）
採択案を第6回理事会（2026年2月頃）に提出する。

(16) 会則等委員会（鎌倉やよい理事）

- ① 理事長の依頼に基づく定款改正の検討
 - ・ 新規事業の創設、実施にあたり、定款との整合性を確認・点検する。
 - ・ 委員会の統廃合について検討し、定款との整合を確認する。
- ② 現行の規程、細則、申し合わせ等の整合性の確認
 - ・ 現行の規程、細則、申し合わせ等の相互の関係性を確認し、整合を図る。
 - ・ 必要時、現行の規程、細則、申し合わせ等を改正する。

(17) 総務委員会（田口敦子理事）

- ・ 入会審査を行う。
- ・ 学生会員の新設および入会資格基準の拡大に基づき、スムーズに運用できるよう検討する。
- ・ 会員管理データシステムの稼働状況を把握し課題を明確にして改善策を検討する。
事務所職員の業務内容を整理し、新体制の構築やバックアップ体制の構築など、安全性の確保を図る。
- ・ 各事務所職員の所掌業務に関するマニュアルの見直しを促し修正する。
- ・ 各事務所職員に年間目標を立案してもらい、結果を職員と共に評価する。
- ・ 事務所職員が各委員会委員長との連携を強化し、各事業へのサポート機能を充実できるよう働きかける。

(18) 選挙管理委員会（武村雪絵委員長・田口敦子理事）

2025年選出理事名簿の提出

(19) 他機関との連携（西村ユミ副理事長／大久保暢子理事）

下記の各機関と連携し、依頼事項に対応する。

- ① 日本看護系学会協議会
- ② 看護系学会等社会保険連合（看保連）
- ③ 日本学術会議
- ④ その他の機関

第2号議案

2025年度 収支予算書(案)

公益社団法人 日本看護科学学会

2025年4月1日から2026年3月31日

科目	公益目的事業						収益事業等			法人会計	合計
	学術振興	学会誌	学術集会	市民講座等	共通	計	広告販売	連携事業	計		
I 一般正味財産増減の部											
1. 経常増減の部											
(1) 経常収益											
受取会費											
正会員受取会費					50,500,000	50,500,000				50,500,000	101,000,000
学生会員受取会費					150,000	150,000					150,000
賛助会員受取会費					250,000	250,000					250,000
事業収益											
学会誌収益(講演集含む)		535,000				535,000					535,000
著作権料		2,633,000				2,633,000					2,633,000
学会誌収益その他		385,000				385,000					385,000
セミナー収益	132,000	22,000				154,000					154,000
学術集会参加費				51,322,000		51,322,000					51,322,000
広告販売収入							6,831,000		6,831,000		6,831,000
寄付金				500,000		500,000					500,000
助成金・補助金等				9,000,000		9,000,000					9,000,000
雑収益											
受取利息										2,000	2,000
経常収益計	132,000	3,575,000	60,822,000		50,900,000	115,429,000	6,831,000		6,831,000	50,502,000	172,762,000
①事業費											
学会誌発行費		38,107,000				38,107,000					38,107,000
表彰費		1,235,000				1,235,000					1,235,000
支払助成金	14,000,000					14,000,000					14,000,000
会場費	129,000	90,000	25,519,024	250,000		25,988,024	430,976		430,976		26,419,000
会議費	183,000	72,000	976,508			1,231,508	16,492		16,492		1,248,000
旅費交通費	654,785	233,527	2,975,627	31,642		3,895,581	51,472	2,629	54,101		3,949,682
消耗品費	495,976	101,184	1,063,395	58,563		1,719,118	21,995	8,708	30,703		1,749,821
通信運搬費	1,116,184	262,993	5,937,122	111,996		7,428,295	111,466	24,160	135,626		7,563,921
印刷製本費	1,220,560	37,162	6,227,270	135,716		7,620,708	106,814	3,549	110,363		7,731,071
委託費	8,124,208	3,026,771	21,325,502	3,740,825		36,217,306	110,460	117,154	227,614		36,444,920
諸謝金	1,434,000	300,000	1,500,000	500,000		3,734,000					3,734,000
雑費	1,347,357	278,498	3,394,966	292,407		5,313,228	67,007	20,866	87,873		5,401,101
賃借料	2,720,121	675,881	1,832,163	285,843		5,514,008	60,857	64,545	125,402		5,639,410
租税公課	8,528	77,288	408,646			494,462	325,780		325,780		820,242
通勤手当	656,402	163,099	442,126	68,978		1,330,605	14,686	15,575	30,261		1,360,866
退職給付費用	519,305	129,034	349,783	54,571		1,052,693	11,618	12,323	23,941		1,076,634
福利厚生費	2,142,654	532,395	1,443,204	225,160		4,343,413	47,937	50,843	98,780		4,442,193
光熱水料費	135,019	33,549	90,944	14,188		273,700	3,021	3,204	6,225		279,925
修繕費	17,310	4,301	11,660	1,819		35,090	387	411	798		35,888
保険料	28,735	7,140	19,354	3,020		58,249	643	682	1,325		59,574
減価償却費	935,890	51,886	96,918	15,121		1,099,815	3,219	3,414	6,633		1,106,448
給料手当(委員会等人件費含む)	11,036,702	2,814,706	9,892,220	1,219,569		24,963,197	241,553	256,193	497,746		25,460,943

科目	公益目的事業						収益事業等			法人会計	合計
	学術振興	学会誌	学術集会	市民講座等	共通	計	広告販売	連携事業	計		
②管理費											
会場費											
会議費										35,000	35,000
学会総会費										508,000	508,000
社員総会費										4,625,000	4,625,000
理事会費										2,334,000	2,334,000
旅費交通費										100,318	100,318
消耗品費										301,179	301,179
通信運搬費										840,079	840,079
印刷製本費										121,929	121,929
委託費										4,214,080	4,214,080
諸謝金										50,000	50,000
雑費										721,899	721,899
賃借料										2,217,590	2,217,590
租税公課										33,758	33,758
通勤手当										535,134	535,134
退職給付費用										423,366	423,366
福利厚生費										1,746,807	1,746,807
光熱水料費										110,075	110,075
修繕費										14,112	14,112
保険料										23,426	23,426
減価償却費										117,307	117,307
渉外費										15,000	15,000
慶弔費										50,000	50,000
支払負担金										430,000	430,000
給料手当（委員会等件費含む）										8,852,057	8,852,057
経常費用計	46,905,736	48,233,414	83,506,432	7,009,418		185,655,000	1,626,383	584,256	2,210,639	28,420,116	216,285,755
当期経常増減額	△ 46,773,736	△ 44,658,414	△ 22,684,432	△ 7,009,418	50,900,000	△ 70,226,000	5,204,617	△ 584,256	4,620,361	22,081,884	△ 43,523,755
2. 経常外増減の部											
(1) 経常外収益											
経常外収益計											
(2) 経常外費用											
経常外費用計											
当期経常外増減額											
他会計振替額					4,958,580	4,958,580	△ 4,958,580		△ 4,958,580		
税引前当期一般正味財産増減額	△ 46,773,736	△ 44,658,414	△ 22,684,432	△ 7,009,418	55,858,580	△ 65,267,420	246,037	△ 584,256	△ 338,219	22,081,884	△ 43,523,755
法人税、住民税及び事業税							70,000		70,000		70,000
当期一般正味財産増減額	△ 46,773,736	△ 44,658,414	△ 22,684,432	△ 7,009,418	55,858,580	△ 65,267,420	176,037	△ 584,256	△ 408,219	22,081,884	△ 43,593,755

注1 従来形式の収支予算書で表示されている各委員会費支出、学術集会費支出は、事業の目的別に区分をし、各費用科目に予算を計上している。

注2 従来形式の収支予算書の事業費、管理費は科目ごとに一定の配賦割合（面積割合や従事割合など）に基づき、本収支予算書の事業費、管理費に配賦されている。

注3 従来形式の収支予算書に表示されている「退職給付支出」「資格喪失者会費支出」は本予算書には算入しない。

注4 従来形式の収支予算書に表示されていない「減価償却費」、「退職給付費用（要積立額）」を本予算書に計上している。

2025年度 収支予算書(案)

2025年 4月 1日 から 2026年 3月 31日 まで

科 目	補足	2025年度予算額 (2025. 4. 1～ 2026. 3. 31)	2024年度予算額 (2024. 4. 1～ 2025. 3. 31)	差異
I 事業活動収支の部				
1. 事業活動収入				
①会費収入		101,400,000	105,250,000	△ 3,850,000
正会員会費収入	※1	101,000,000	105,000,000	△ 4,000,000
学生会員収入	※2	150,000	0	150,000
賛助会員会費収入	※3	250,000	250,000	0
②公益目的事業収入		64,529,000	48,276,000	16,253,000
寄付金収入(共通)		0	0	0
学術振興事業収入		132,000	120,000	12,000
JANSセミナー収入	※4	132,000	120,000	12,000
学会誌事業収入		3,575,000	2,656,000	919,000
学会誌販売収入		535,000	654,000	△ 119,000
著作権料収入	※5	2,633,000	1,732,000	901,000
学会誌収入その他	※6	385,000	250,000	135,000
JJNSセミナー収入	※7	22,000	20,000	2,000
学術集会事業収入		60,822,000	45,500,000	15,322,000
学術集会参加費収入		51,322,000	44,570,000	6,752,000
事前登録正会員(12,000円/不課税)		25,200,000	19,800,000	5,400,000
事前登録学生会員(1,000円/不課税)		30,000	0	30,000
事前登録非会員(15,400円/税込)		9,240,000	7,150,000	2,090,000
事前登録学部生(3,300円/税込)		33,000	0	33,000
通常登録会員(14,000円/不課税)		11,200,000	13,000,000	△ 1,800,000
通常登録学生会員(1,000円/不課税)		20,000	0	20,000
通常登録非会員(17,600円/税込)	※8	5,456,000	4,620,000	836,000
通常登録学部生(3,300円/税込)		33,000	0	33,000
通常登録留学生等(5,500円/税込)		110,000	0	110,000
寄附金・助成金等収入		9,500,000	930,000	8,570,000
寄附金収入		500,000	500,000	0
助成金・補助金等収入		9,000,000	430,000	8,570,000
③収益事業等収入(広告販売収入)		6,831,000	9,647,000	△ 2,816,000
企業展示出張料収入		2,882,000	4,994,000	△ 2,112,000
広告掲載料収入		1,309,000	2,013,000	△ 704,000
ランチョンセミナー収入		2,640,000	2,640,000	0
④法人会計収入		2,000	951,000	△ 949,000
懇親会収入	※9	0	950,000	△ 950,000
受取利息収入(特定資産利息含む)		2,000	1,000	△ 1,000
事業活動収入合計(I a)		172,762,000	164,124,000	8,638,000
2. 事業活動支出				
①公益目的事業支出		135,190,000	127,684,000	7,506,000
学術振興事業支出		21,483,000	28,293,000	△ 6,810,000
研究・学術推進委員会費支出	※10	345,000	353,000	△ 8,000
看護ケア開発・標準化委員会費支出	※11	1,443,000	2,960,000	△ 1,517,000
若手研究者活動推進委員会費支出		693,000	1,986,000	△ 1,293,000
国際活動推進委員会費支出		531,000	631,000	△ 100,000
看護学学術用語検討委員会費支出	※12	1,009,000	1,603,000	△ 594,000
看護倫理検討委員会費支出		175,000	153,000	22,000
災害看護支援委員会費支出		446,000	536,000	△ 90,000
【仮称】若手研究者・研究助成選考委員会費支出	※13	1,183,000	1,127,000	56,000
若手研究者助成金支出	※14	5,000,000	7,000,000	△ 2,000,000
研究助成金支出	※15	9,000,000	10,000,000	△ 1,000,000
研究倫理審査委員会費支出		69,000	160,000	△ 91,000
JANSセミナー開催費支出	※16	1,589,000	1,784,000	△ 195,000
学会誌事業支出		42,022,000	40,604,000	1,418,000
和文誌編集委員会費支出		50,000	50,000	0
和文誌編集費支出	※17	15,137,000	14,544,000	593,000
英文誌編集委員会費支出		840,000	765,000	75,000
英文誌編集費支出		22,970,000	22,870,000	100,000
表彰論文選考委員会費支出		180,000	183,000	△ 3,000
受賞論文表彰費支出		1,235,000	1,439,000	△ 204,000
JJNSセミナー開催費支出	※18	1,610,000	753,000	857,000
学術集会費支出		67,263,000	53,452,000	13,811,000
当年度開催学術集会	※19	64,083,000	49,882,000	14,201,000
次年度開催学術集会(準備期間)	※20	3,180,000	3,570,000	△ 390,000
市民講座等事業支出		4,422,000	5,335,000	△ 913,000
【仮称】広報・社会貢献委員会費支出	※21	4,422,000	5,335,000	△ 913,000

科 目	補足	2025年度予算額 (2025. 4. 1~ 2026. 3. 31)	2024年度予算額 (2024. 4. 1~ 2025. 3. 31)	差異
②管理費支出		78,672,000	73,213,000	5,459,000
給料手当支出	}	31,186,000	29,946,000	1,240,000
福利厚生費支出		※22	6,189,000	5,543,000
通勤費支出		1,896,000	2,148,000	△ 252,000
退職給付支出		300,000	300,000	0
学会総会費支出	※23	508,000	538,000	△ 30,000
社員総会費支出	※24	4,625,000	4,625,000	0
理事会費支出	※25	2,334,000	2,874,000	△ 540,000
委託費支出	※26	14,261,000	7,554,000	6,707,000
人件費支出		40,000	40,000	0
渉外費支出		15,000	15,000	0
旅費交通費支出	※27	320,000	846,000	△ 526,000
通信運搬費支出	※28	2,941,000	1,817,000	1,124,000
消耗品費支出		1,060,000	980,000	80,000
印刷製本費支出	※29	432,000	311,000	121,000
慶弔費支出		50,000	50,000	0
光熱水料費支出		390,000	390,000	0
賃借料支出	※30	7,857,000	7,984,000	△ 127,000
保険料支出		83,000	83,000	0
諸謝金支出		50,000	50,000	0
租税公課支出	※31	854,000	1,254,000	△ 400,000
負担金支出		430,000	430,000	0
修繕費支出		50,000	50,000	0
雑支出	※32	2,540,000	3,059,000	△ 519,000
懇親会運営費支出	(※9)	0	1,800,000	△ 1,800,000
委員会活動費支出		261,000	526,000	△ 265,000
総務委員会費支出		10,000	10,000	0
〔仮称〕広報・社会貢献委員会費支出	※33	35,000	25,000	10,000
会則等検討委員会費支出		152,000	192,000	△ 40,000
利益相反委員会費支出		59,000	149,000	△ 90,000
選挙費用支出	※34	5,000	150,000	△ 145,000
③その他支出		2,400,000	2,200,000	200,000
資格喪失者会費支出	※35	2,400,000	2,200,000	200,000
事業活動支出合計 (I b)	※36	216,262,000	203,097,000	13,165,000
事業活動収支差額 (I a)-(I b)		△ 43,500,000	△ 38,973,000	△ 4,527,000
II 投資活動収支の部 (資金の内部移動)				
1. 投資活動収入(各種立金を取り崩し、それを資金として使用する)				
選挙積立取崩(選挙費用として使用)		5,000	150,000	△ 145,000
退職給付引当資産取崩		300,000	300,000	0
若手研究者助成資金取崩	(※14)	5,000,000	7,000,000	△ 2,000,000
研究助成資金取崩	(※15)	9,000,000	10,000,000	△ 1,000,000
長期前払費用振替収入		55,000	0	55,000
投資活動収入合計 (II a)		14,360,000	17,450,000	△ 3,090,000
2. 投資活動支出 (目的のある積立をするために、事業活動の資金を各種立預金に振り替える)				
①特定資産取得支出 (各種立預金に振り替える)		2,500,000	2,200,000	300,000
選挙積立預金		1,000,000	1,000,000	0
退職給付引当金積立		1,500,000	1,200,000	300,000
②固定資産取得支出 (固定資産に計上する)		0	55,000	△ 55,000
長期前払費用取得支出		0	55,000	△ 55,000
投資活動支出合計 (II b)		2,500,000	2,255,000	245,000
投資活動収支差額 (II a)-(II b)		11,860,000	15,195,000	△ 3,335,000
III 財務活動収支の部				
1. 財務活動収入				
財務活動収入合計 (III a)		0	0	0
2. 財務活動支出				
財務活動支出合計 (III b)		0	0	0
財務活動収支差額 (III a)-(III b)		0	0	0
IV 予備費支出		1,000,000	1,000,000	0
当期収支差額		△ 32,640,000	△ 24,778,000	△ 7,862,000

- ※1 2025年4月1日時点での会員数を10,000名、新入会者・再入会者800名、資格喪失者700名と見積もり、合計10,100名分を会費収入として計上。
- ※2 2025年度より学生会員を設置する。新入会学生会員を50名として計上している。
- ※3 ㈱日本看護協会出版会(2口)、㈱医学書院・㈱南江堂・㈱へるす出版(各1口)。賛助会費1口5万円。
- ※4 JANSセミナー(第26回、第27回)の参加費収入。2022年度から会員の特典としてセミナー参加費を無料としている。
- ※5 和文誌・英文誌の著作権料。英文誌出版社(Wiley)との契約変更(収入の8%⇒15%)に伴い増額している。
- ※6 和文誌の会員外の共著者掲載料。
- ※7 JJNSセミナー2025の参加費収入。2022年度から会員の特典としてセミナー参加費を無料としている。
- ※8 第45回学術集会(新潟開催)の参加費、協賛金、寄附金、助成金などの収入。
- ※9 第45回学術集会では懇親会を開催しない予定である。
- ※10 2025年度より「研究・学術推進委員会」と「COVID-19看護研究等対策委員会」を統合する。
- ※11 2025年度に繰り越すガイドライン作成費用とガイドラインの調査解析費用はあるが全体を見直し減額となった。
- ※12 JANSpedialに関する費用(翻訳費・謝金等)の見直しにより減額している。
- ※13 2025年度より「若手研究者助成選考委員会」と「研究助成選考委員会」を統合する。
- ※14 若手研究者助成資金の積立てから取り崩して若手研究者助成金支出に充当する。
- ※15 研究助成資金の積立てから取崩して研究助成金支出に充当する。
- ※16 第26回と第27回のJANSセミナー開催費用。
- ※17 オンライン投稿・査読システム(ScholarOne)の利用料金の値上げ、および迅速査読の見込み件数の増加に伴い増額している。
- ※18 JJNSセミナー2025の開催費用。
- ※19 第45回学術集会に関わる開催当年度の費用。(開催地:新潟)
- ※20 第46回学術集会に関わる開催前年度の費用。(開催地:東京)
- ※21 2025年度より「広報委員会」と「社会貢献委員会」を統合する。費用を見直し減額となった。
【広報活動のうち公益目的事業(市民公開講座、学術集会)に関する経費を事業費に計上している】
- ※22 正職員6名の給与・賞とおよび、社会保険料、健康診断料など。
- ※23 学会総会1回開催(12月/第45回学術集会の会場を使用)
- ※24 社員総会2回開催(6月東京・12月新潟/貸会議室使用)。
- ※25 理事会7回開催(5月、6月、7月、9月、10月、12月、2月)。6月東京、12月新潟は貸会議室利用。
- ※26 【法人として必要】
会計事務所(151万円)＜会計顧問料(79万円)、社会保険労務士(33万円)、内閣府提出書類作成料(11万円)、変更認定書類作成(28万円)＞、司法書士報酬(10万円)、公認会計士監査報酬(36万円)、顧問弁護士(40万円)
【学会事業に直接必要】
会員管理システム利用料(282万円)＜基本利用料(116万円)、会費コンビニ決済機能(27万円)、学術集会参加登録・行事管理機能(82万円)、クレジット決済機能(35万円)、ディスク領域使用料(7万円)、アンケート機能(15万円)＞、翻訳費用(22万円)、Web会議システムZoom(30万円)、事務所PCサポート・セキュリティサービス・プロバイダ保守費用(14万円)、封入・発送手数料(35万円)
JANSホームページリニューアル費用(806万円)
- ※27 事務職員の出張に伴う旅費。第45回学術集会は新潟開催。通勤費は「通勤手当」に別途計上している。
- ※28 理事、各委員の交代に伴う委嘱状の郵送、および郵便料金の大幅な値上げにより増額している。
- ※29 理事長交代挨拶状に関する費用を計上している。
- ※30 事務所複合機(コピー機)のリース満期に伴う新規機種更新をせず、現行機種にて再リース契約をおこなうため減額している。
- ※31 適格請求書発行事業者(インボイス番号取得者)となっている取引先が多く、前年度実績を鑑み支払消費税を減額している。
- ※32 前年度実績を鑑み減額している。
- ※33 2025年度より「広報委員会」と「社会貢献委員会」を統合する。
【広報活動のうち、委員会開催費(会議費)を管理費に計上している】
- ※34 選挙開催年ではないため減額している。選挙資金の積立てから取り崩して選挙費支出に充当する。
- ※35 活動経費支出ではないが、会費の未納により収入が減少するため費用に計上している。
- ※36 事業活動支出合計には、積立資金から取り崩す【助成金支出(1400万円)】が含まれている。

第3号議案

定款の変更（学会総会について）

2023年度2月理事会でのご意見、3月に行った学会総会アンケートのご意見、司法書士の見解に基づき、学会総会は本会運営に関し広く会員からの意見や質問、提案等を聞く場であることを明瞭とするため、学会総会の権限の記載の見直しと議決権の削除を提案する。

学会総会アンケートについて

学会総会アンケートを2024年3月13日（水）～3月27日（水）に実施した。

対象は3月13日時点の日本看護科学学会 正会員10,368名（メールアドレス登録数：10,326）、回収人数は403名であった。議決についての問いに対し、議決あり、議決不要（学会の報告等従来の内容に沿ったスタイルによる開催、自由な意見を言える場として、従来の方法に縛られないライトなスタイルによる開催を合わせると）は、ほぼ同数であった。

また、開催方法についてはオンラインや特設ページでの開催を希望する方も多かった。

司法書士の見解について

- ・現在、法定要件を満たす本会の議決機関は「社員総会」であり、「学会総会」の議決は必要とされていない。
- ・現定款では学会総会の権限は「本会運営上の重要事項について、理事会に対し意見を具申する。」（定款第41条）となっており、議決機関であるかのようになっているため、社員総会との違いを明瞭にすることが好ましい。
（最高議決機関である社員総会と同等かそれ以上の権限があるような記載は不可）

以上をもとに、以下のとおり学会総会に関する定款の変更を提案する。

提案	現状	変更の根拠・備考
<p>第6章 学会 総会 （学会総会）</p> <p>第39条 原則として毎事業年度の学術集會時に学会総会を開催する。</p> <p>2. 会員は学会総会に出席することができる。</p> <p>（学会総会の構成）</p> <p>第40条 削除 注：削除について、条項の繰り下げや繰り上げはしない（以後、すべて）</p>	<p>第6章 学会 総会 （学会総会の種類）</p> <p>第39条 学会総会は、定時学会総会と臨時学会総会とする。</p> <p>（学会総会の構成）</p> <p>第40条 学会総会は、正会員をもって組織する。</p>	<p>現在、法定要件を満たす本会の議決機関は「社員総会」であるが、現定款の学会総会の権限「本会運営上の重要事項について、理事会に対し意見を具申する。」（定款第41条）の記載により議決機関であるかのように誤解されることを避ける。対面で意見交換できる場が重要であるので、学会総会は意見交換の場とする修正を行う。</p> <p>第40条 名誉会員や賛助会員、新設を提案している学生会員の参加が可能な記載とするため会員に変更し第39条に位置付けるとともに第40条を削除する。</p>

<p>(学会総会の役割)</p> <p>第41条 1. 理事会は社員総会の結果を会員に報告する。 2. 会員は、本会の運営について意見や質問、提案等を行うことができる。</p> <p>(学会総会の開催)</p> <p>第42条 削除</p> <p>(学会総会の招集)</p> <p>第43条 学会総会は理事長が招集する。</p> <p>(学会総会の議長)</p> <p>第44条 学会総会の議長は、理事長があたる。</p>	<p>(学会総会の権限)</p> <p>第41条 学会総会は、本会運営上の重要事項について、理事会に対し意見を具申する。</p> <p>(学会総会の開催)</p> <p>第42条 定時学会総会は、毎年1回開催する。 2. 臨時学会総会は、次の各号の一に該当する場合に開催する。 (1) 開催についての理事会の決議があったとき (2) 正会員現在数の5分の1以上から理事長に対して請求があったとき (3) 監事から招集請求があったとき</p> <p>(学会総会の招集)</p> <p>第43条 学会総会は理事長が招集する。 2. 理事長は、前条第2項各号の一に該当することとなった場合には、その日から30日以内に臨時学会総会を招集しなければならない。 3. 理事長は、学会総会を招集する場合には、会議の日時、場所、目的及び審議事項を記載した書面を少なくとも学会総会の7日前までに正会員に対して、発送しなければならない。</p> <p>(学会総会の議長)</p> <p>第44条 学会総会の議長は、その総会において、出席した正会員の中から、出席した正会員の議決権の</p>	<p>第41条 本会の議決機関は社員総会であり学会総会には権限はないため『学会総会の役割』と変更する。</p> <p>第42条 本会の議決機関は社員総会であり、臨時学会総会の開催要件の記載は、法令上不要のため削除する。</p> <p>第43条 第42条の臨時学会総会の開催要件の記載削除につき、招集に関する記載内容を変更する。</p> <p>第44条 議長が学術集会会長である必要がないため議長は理事長に変更する。</p>
---	--	---

<p>(学会総会の定足数) 第45条 削除</p>	<p>過半数の同意により選出する。 ただし、定時学会総会の議長は 学術集会会長があたる。 (学会総会の定足数) 第45条 学会総会は総正会員の議決権の 10分の1以上を有する正会員の 出席により成立する。</p>	<p>第45条 本会の議決機関は「社員総会」 であり、法令上、学会総会の定 足数の記載は不要のため削除 する。</p>
<p>(学会総会の決議) 第46条 削除</p>	<p>(学会総会の決議) 第46条 学会総会の決議は、本定款に特 別の定めがある場合のほかは、 出席した正会員の議決権の過半 数をもって決する。 2. 正会員は1人につき1議決 権を有する。</p>	<p>第46条 本会の議決機関は「社員総会」 であり、法令上、学会総会の決 議要件の記載は不要のため削 除する。</p>
<p>(議決権の代理行使等) 第47条 削除</p>	<p>(議決権の代理行使等) 第47条 学会総会に出席できない正会員 は、委任状を理事長に提出して、 他の正会員である代理人によっ てその議決権を行使することが できる。この場合においては、当 該議決権の数を前3条の出席し た正会員の議決権の数に算入す る。</p>	<p>第47条 学会総会では決議しないため 削除する。</p>
<p>(議事録等) 第48条 学会総会の議事については原則と して議事録を作成する。</p>	<p>(議事録等) 第48条 学会総会の議事については議事 録を作成しなければならない。 2. 議事録の承認は、議長及びそ の学会総会において選出された 議事録署名人2名以上が、記名 押印をしなければならない。</p>	<p>第48条 学会総会は法令上の議決機関 ではないため議事録署名人は 不要のため作成のみにとどめ る。</p>

変更案の考え方

- ① 従来の社員総会のような取り決めではなく、学会活動を会員に向け報告・説明し、会員からも意見を聴取する場としての開催にする。
- ② 開催方法は対面、オンライン、ホームページ等での実施が検討されるが、定款にはそこまで明記しない。あくまで、1年に1回、原則として学術集会開催時に行うとのことまでにとどめる。会員ならだれでも自由に参加できるよう定足数は設けない。

第4号議案

第47回日本看護科学学会学術集会会長の承認

第47回（2027年度）日本看護科学学会学術集会会長 候補者

田高 悦子（北海道大学）

2025年度 収支予算書(案)

公益社団法人 日本看護科学学会

2025年4月1日から2026年3月31日

科目	公益目的事業						収益事業等			法人会計	合計
	学術振興	学会誌	学術集会	市民講座等	共通	計	広告販売	連携事業	計		
I 一般正味財産増減の部											
1. 経常増減の部											
(1) 経常収益											
受取会費											
正会員受取会費					50,500,000	50,500,000				50,500,000	101,000,000
学生会員受取会費					150,000	150,000					150,000
賛助会員受取会費					250,000	250,000					250,000
事業収益											
学会誌収益		535,000				535,000					535,000
著作権料収益		2,633,000				2,633,000					2,633,000
学会誌収益その他		385,000				385,000					385,000
セミナー収益	132,000	22,000				154,000					154,000
学術集会参加費収益			51,322,000			51,322,000					51,322,000
広告販売収益							6,831,000		6,831,000		6,831,000
寄付金			500,000			500,000					500,000
助成金・補助金等			9,000,000			9,000,000					9,000,000
雑収益											
受取利息										2,000	2,000
経常収益計	132,000	3,575,000	60,822,000		50,900,000	115,429,000	6,831,000		6,831,000	50,502,000	172,762,000
① 事業費											
学会誌発行費		38,107,000				38,107,000					38,107,000
表彰費		1,235,000				1,235,000					1,235,000
支払助成金	14,000,000					14,000,000					14,000,000
会場費	129,000	90,000	25,519,024	250,000		25,988,024	430,976		430,976		26,419,000
会議費	183,000	72,000	976,508			1,231,508	16,492		16,492		1,248,000
旅費交通費	654,785	233,527	2,975,627	31,642		3,895,581	51,472	2,629	54,101		3,949,682
消耗品費	495,976	101,184	1,063,395	58,563		1,719,118	21,995	8,708	30,703		1,749,821
通信運搬費	1,116,184	262,993	5,937,122	111,996		7,428,295	111,466	24,160	135,626		7,563,921
印刷製本費	1,220,560	37,162	6,227,270	135,716		7,620,708	106,814	3,549	110,363		7,731,071
委託費	8,124,208	3,026,771	21,325,502	3,740,825		36,217,306	110,460	117,154	227,614		36,444,920
諸謝金	1,434,000	300,000	1,500,000	500,000		3,734,000					3,734,000
雑費	1,347,357	278,498	3,394,966	292,407		5,313,228	67,007	20,866	87,873		5,401,101
賃借料	2,720,121	675,881	1,832,163	285,843		5,514,008	60,857	64,545	125,402		5,639,410
租税公課	8,528	77,288	408,646			494,462	325,780		325,780		820,242
通勤手当	656,402	163,099	442,126	68,978		1,330,605	14,686	15,575	30,261		1,360,866
退職給付費用	519,305	129,034	349,783	54,571		1,052,693	11,618	12,323	23,941		1,076,634
福利厚生費	2,142,654	532,395	1,443,204	225,160		4,343,413	47,937	50,843	98,780		4,442,193
光熱水料費	135,019	33,549	90,944	14,188		273,700	3,021	3,204	6,225		279,925
修繕費	17,310	4,301	11,660	1,819		35,090	387	411	798		35,888
保険料	28,735	7,140	19,354	3,020		58,249	643	682	1,325		59,574
減価償却費	935,890	51,886	96,918	15,121		1,099,815	3,219	3,414	6,633		1,106,448
給料手当(委員会等件費含む)	11,036,702	2,814,706	9,892,220	1,219,569		24,963,197	241,553	256,193	497,746		25,460,943
② 管理費											
会場費										35,000	35,000
会議費										508,000	508,000
学会総会費										4,625,000	4,625,000
社員総会費										2,334,000	2,334,000
理事会費										100,318	100,318
旅費交通費										301,179	301,179
消耗品費										840,079	840,079
通信運搬費										121,929	121,929
印刷製本費										4,214,080	4,214,080
委託費										50,000	50,000
諸謝金										721,899	721,899
雑費										2,217,590	2,217,590
賃借料										33,758	33,758
租税公課										535,134	535,134
通勤手当										423,366	423,366
退職給付費用										1,746,807	1,746,807
福利厚生費										110,075	110,075
光熱水料費										14,112	14,112
修繕費										23,426	23,426
保険料										117,307	117,307
減価償却費										15,000	15,000
渉外費										50,000	50,000
慶弔費										430,000	430,000
支払負担金										8,852,057	8,852,057
給料手当(委員会等件費含む)											
経常費用計	46,905,736	48,233,414	83,506,432	7,009,418		185,655,000	1,626,383	584,256	2,210,639	28,420,116	216,285,755
当期経常増減額	△ 46,773,736	△ 44,658,414	△ 22,684,432	△ 7,009,418	50,900,000	△ 70,226,000	5,204,617	△ 584,256	4,620,361	22,081,884	△ 43,523,755
2. 経常外増減の部											
(1) 経常外収益											
経常外収益計											
(2) 経常外費用											
経常外費用計											
当期経常外増減額											
他会計振替額					4,958,580	4,958,580	△ 4,958,580		△ 4,958,580		
税引前当期一般正味財産増減額	△ 46,773,736	△ 44,658,414	△ 22,684,432	△ 7,009,418	55,858,580	△ 65,267,420	246,037	△ 584,256	△ 338,219	22,081,884	△ 43,523,755
法人税、住民税及び事業税							70,000		70,000		70,000
当期一般正味財産増減額	△ 46,773,736	△ 44,658,414	△ 22,684,432	△ 7,009,418	55,858,580	△ 65,267,420	176,037	△ 584,256	△ 408,219	22,081,884	△ 43,593,755

注1 従来形式の収支予算書で表示されている各委員会費支出、学術集会費支出は、事業の目的別に区分をし、各費用科目に予算を計上している。

注2 従来形式の収支予算書の事業費、管理費は科目ごとに一定の配賦割合(面積割合や従事割合など)に基づき、本収支予算書の事業費、管理費に配賦されている。

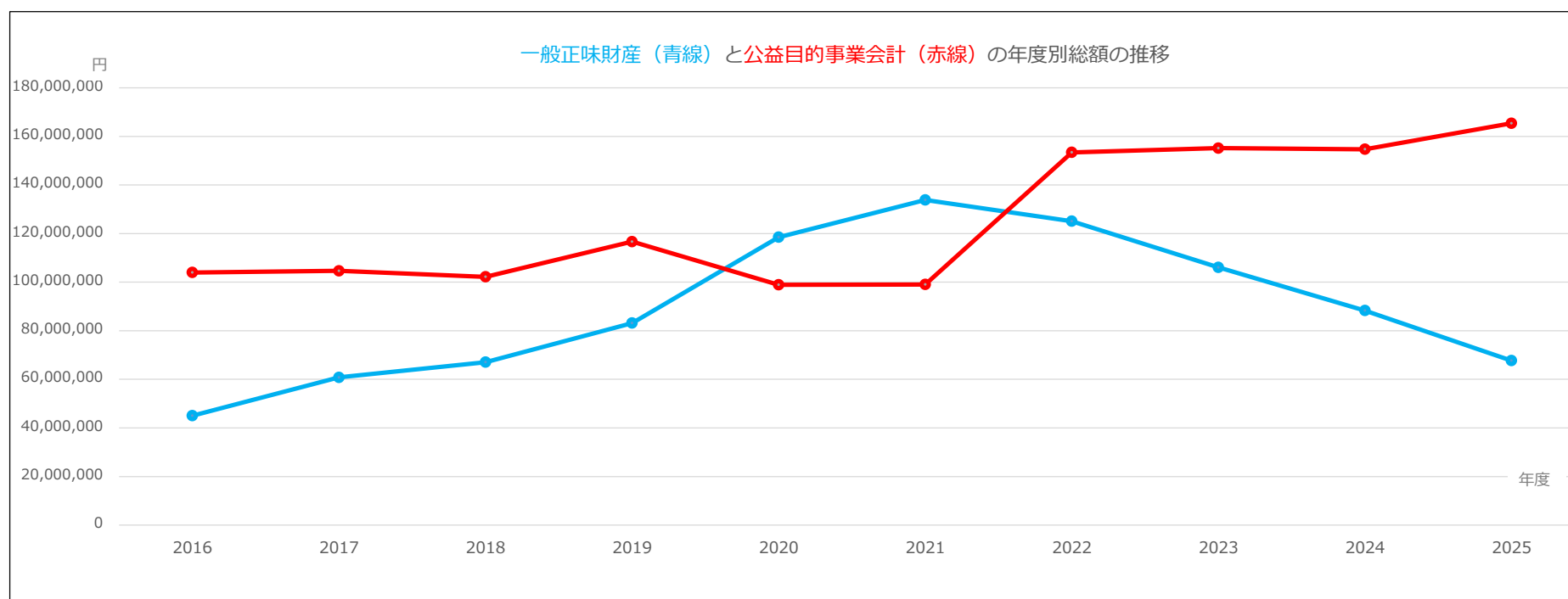
注3 従来形式の収支予算書に表示されている「退職給付支出」「資格喪失者会費支出」は本予算書には算入しない。

注4 従来形式の収支予算書に表示されていない「減価償却費」、「退職給付費用(要積立額)」を本予算書に計上している。

一般正味財産（基金を除く）の推移（決算時）

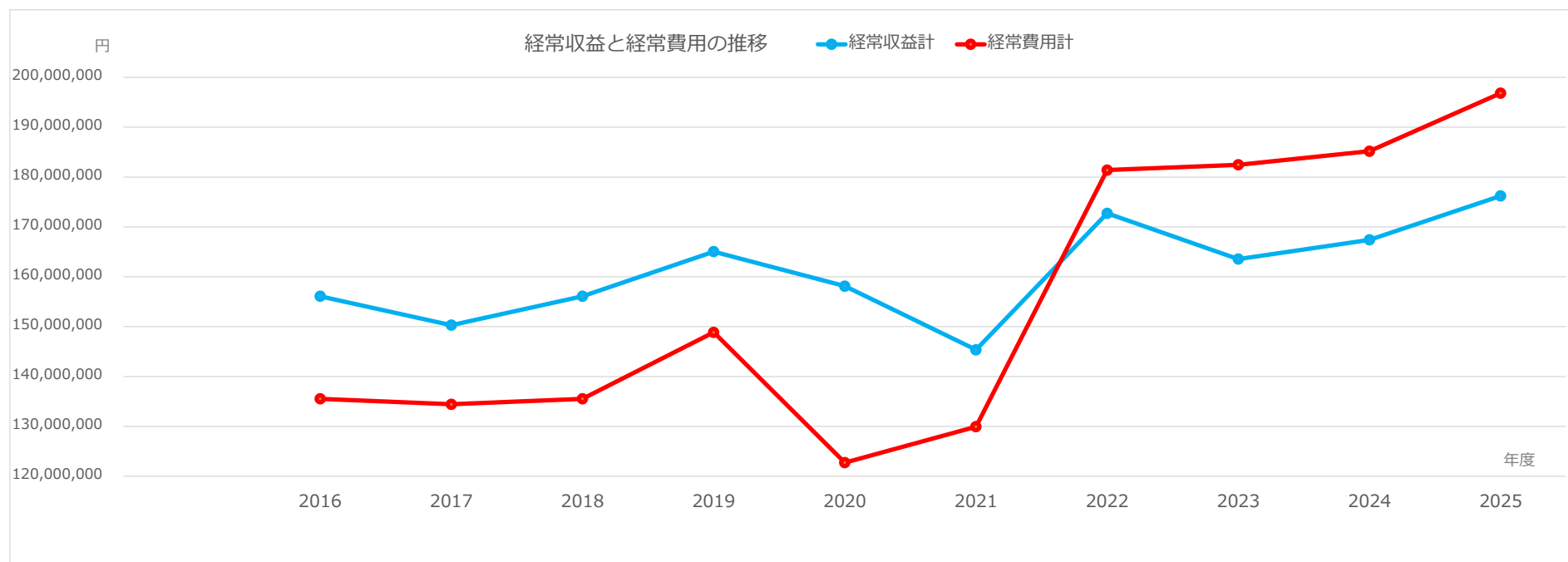
正味財産－基金（72,926,624円）

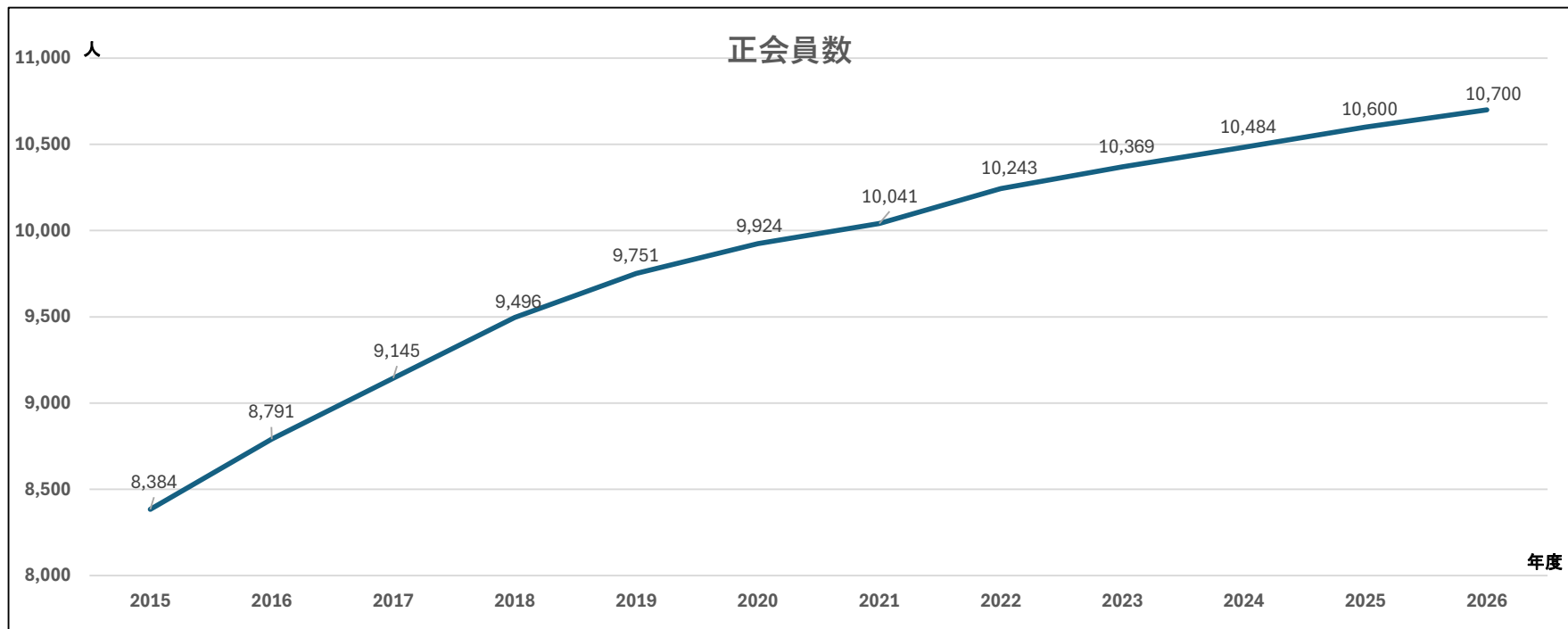
年度	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025
一般正味財産	45,016,466	60,813,794	67,069,784	83,172,155	118,493,788	133,848,758	125,098,710	106,099,508	88,316,782	67,713,985
公益目的事業会計 合計	104,002,619	104,675,592	102,213,615	116,682,042	98,919,823	99,045,643	153,438,663	155,164,916	154,721,870	165,418,605
公益目的事業会計 (経常費用) 対予算執行率	91.2%	95.1%	92.3%	91.9%	89.7%	79.1%	89.3%	83.8%	89.1%	89.1%
備考						3千万円を若手研究者助成資金へ繰入	3千万円を研究助成資金に繰入		経常費用対予算執行率89.1%（平均値）で試算	



経常収益と経常費用の推移

年度	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025
経常収益計	156,098,838	150,305,243	156,098,838	165,037,912	158,120,106	145,364,365	172,729,911	163,547,525	167,406,480	176,217,240
対予算執行率	105.8%	101.0%	98.2%	101.8%	108.8%	99.1%	99.1%	102.2%	102.0%	102.0%
経常費用計	135,520,872	134,435,415	135,520,872	148,857,640	122,722,473	129,928,995	181,402,030	182,470,527	185,189,206	196,820,037
対予算執行率	94.7%	96.6%	92.6%	93.4%	86.2%	84.5%	88.5%	91.5%	92.0%	92.0%
備考						3千万円を若手研究者助成資金へ繰入	3千万円を研究助成資金に繰入		対予算経常収益平均値102% 対予算経常費用平均値91% にて試算	





年度	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026
正会員数 数値は決算時	8,384	8,791	9,145	9,496	9,751	9,924	10,041	10,243	10,369	10,484	10,600	10,700
増減	0	407	354	351	255	173	117	202	126	115	116	100
学生会員											50	70

2024.10.17現在 予想 予想

- ・入会数はこの10年間、800名前後でほとんど変化はないが、退会者が増加傾向にある。(2024.10.17)
- ・2026年度以降は会員増加から現状維持、または減少になる可能性も